

学校舞踊の創作に関する諸問題 V

碓 井 エ イ*

Ei Usui

Dance composition and production in school education V

はじめに

明治8年、京都第30区小学校に幼稚遊戯場が設立されている。次いで30年頃になると遊戯書が集中的に刊行されるようになる。曰く故西村正三郎君の勤に依り「女子体操は須らく楽器を使用して興味を副ふべし」と諭せり我公務を辞し…。書の名称は、表出体操・音楽応用美的遊戯・唱歌列舞・行進運動法・女子表情体操・舞踏全集とそれぞれの特性が現われて興味深い内容になっている。同じ頃、渡米してスウェーデン体操を研究した井口あぐりは、ギムナスティックダンスを紹介している。これは「体操的な狙いをもった音楽を伴う律動運動」である。以上を中心にした研究と実技研究は、大正期の古典バレエ影響期を経て、昭和初期にはワルツ調の優雅な行進遊戯、音楽遊戯時代に入るのである。これは要目作成委員である戸倉ハル（最初的女子体育者文部省派遣としてパリーの第2回国際女子体育会議に出席され日本国際会議開催を目標に日本女子体育連盟を組織する）。ドイツで自然運動を研究された藤村トヨ、伊沢エイ（ウイグマン・ボーデの門を訪れ基本の運動を学び日本に始めて緊張・解緊・蛇動の動きを取り入れる）その他の各諸氏の努力によって例年全国各地の運動会には美事な花々を咲かせ、観賞者とのコミュニケーションに役立つようになっていた。

昭和22年、これまでの各種遊戯既成作品の一斉教授形態は180度の大転換をして、自由創作性を基底に「生活環境や生活感情から取材して創作的表現に導く」となり、グループ表現活動の段階的探求が急がれたのである。そして名称も「リズム運動」「ダンス」「表現運動」（中学・高校は創作ダンス）と改変されると同時に、学習指導は「内容の方法と確立」を目標にそれぞれの立場での研究が続けられてきたのである。最初の頃は表現法創作方法論の模索低迷の時期もあった。とにかく研究熱

心というよりは踊ることの好きな連中が東京教育大学の古い体育館に集まり、幼稚園から大学の先生まで一緒に汗を流して一つの作品を創って、その手順を探る方法から始まったのである。

明治後期の各種遊戯は当初から運動会等に発表するねらいがあり、表情遊戯は和服、袴姿に扇子を持って舞台観賞用に教授が行われていた。この発表の場をもつ形態は現在も受け継がれている。昭和46年、国際会議記念第一回、全日本女子体育実技研究発表大会（於駒沢大学・東京都児童会館）に、島根大学創作舞踊研究班は中央における最初の発表の場をもったのである。（魔王発表）。翌年は以前から懇請を続けた教育系国立大学創作舞踊研究発表大会に出演ができるようになり、以後は関東地方の各大学・山梨大学の主催による研究発表会に参加して今日に至っている。最近では会期も2日間になって教官による研究発表、グループ別研究討論など年毎に有意義な会合になって、学生の理解を深めている。

昭和49年、島根県では高校総合競技大会の種目別大会の一つに創作舞踊発表大会が認められている。この研究会は昭和30年から出雲地区・石見地区別発表会を継続しており、全国的にみても実にユニークな存在になっているようである。

そして、昭和59年1月14日 女子体育連盟主催による第13回日本女子体育実技研究発表大会が、外国勢の参加も含めて日本武道館に於いて華麗に開催する運びになったのである。こうして遊戯から創作ダンスへの100年に及ぶ確実な歩みの最頂点を極めるのである。昨年度始めに贈る言葉で東大向坊学長は最近の若い人達の音楽感覚は国際レベルにあると評しているが、確かに教育学部で表現運動・舞踊を受講する学生達も、一年一年と表現力が豊かになるのに加えて、ジャズダンスを巧みに踊りこなす男子学生も少くはない。

かつてモスクワで開催された文化の祭典では、流動性の強烈な集団によるマスゲームが発表されて、世界の人

* 島根大学教育学部保健体育研究室

々の耳目を驚かしていたが、今回のモスクワオリンピックでは男女体育学生によるジャズダンスがエキジビションとして紹介されていた。このリズムは明快にして複雑であると言おうか、すぐ模倣できないもどかしさがあったのを記憶している。

模倣・表現・創作学習指導が誕生して37年になっているが、60年後の教育諸事情・創作技術構造の形式はどのようなになっているのかと自由な想像を楽しみたいと考えている。

研究方法

最近、山陰体育学会、日本体育学会、日本教育大学協会第2部会保健体育部門の全国創作舞踊研究発表大会（昭和57年新しく位置づけられる）に発表した研究内容を総括する。特に明治後期の各種遊戯法の6著書と大正・昭和初期の代表とし改正体操教授要目解説書の「唱歌遊戯・行進遊戯」篇をとりあげてみる。——東京女子体操音楽学校教授伊沢エイ創案、文学博士田中寛一・同寺沢敏男編集——改定新学習指導要領の表現運動領域の三分野について比較見討を加える。また遊戯書を中心にして学習指導要領の変遷とこれに伴う特徴的事柄について述べてみる。また関連のある舞踊の歴史では舞と踊りについて、ダンスの語源、ねらいの変遷、基本の運動に対する考え方、作品構成法、音楽、服装その他について述べてみる。更に創作方法論については戦後の関係の深かった舞台芸術家および研究の友人になっている指導者達の考え方について触れてみる。問題の周辺を探る手立ての一つとして当大学の創作指導の実情も加えてみようと考えている。

明治後期の遊戯を代表するのは次の6書である。

- A 音楽応用女子体操及遊戯法——高橋忠次郎。依田直伊 共編
- B 新撰遊戯法（36年5月）日本体育会編纂・表出体操は小野泉太郎考案による。
- C 新式女子表情体操（36年10月）日本女子大学教授、白井規矩郎著、容儀的訓練は仏国デルサートによる体操で長友川瀬九郎の口訳によっている。
- D 新式欧米美的遊戯（36月10月）白井規矩郎著
- E 行進運動法（38年）ア・ヘルマン（ブラウンシュツィヒ府体操視学官）原案、坪井玄道・可児徳共訳
- F 最新舞踏全書（36年7月）日本遊戯調査会調査委員編纂

各書関係の試行対象校

- A 女子高等師範学校、同附属高等女学校、華族女学校、我が国の模範学校と称すべき小学校、この遊戯法は1876年米人フェリスの創設の女学校に就き調査した方法による。
- B 本会が本校生について実績をあげた方法による。
- C 日本女子大学校、同附属高等女学校、高等小学校（女生徒）高等女学校の各級に施行する。
- D 表情的訓練の方法は現に専ら日本女子大学校附属高等女学校の各級に試行する。
- E 体操用列舞は独乙小学校に専ら採用されている。

各書の効用の理解について

- A 準備法——生徒の姿勢を矯正し、天然の美勢に復らしめ各運動を教授する予備練習とする。体操法——中学校、師範学校教科書用（普通体操法）の教授を骨子とし従来唱呼に換えて曲譜を使用する。遊戯法——高尚なる舞踊法中最も優美なる部分を抜抄する。
- B 下肢の運動だけでなく間接に軀幹、上肢を動かすので姿勢を良くし動作を優美にし、特に呼吸器官の発達に大効あり。運動に意味があり唱歌も至良の体操法なり。多人数合育的に行えること。家庭における児童の遊戯としてもよい。
- C 表情訓練法は或る意義に基き構成せしものなれば軀軀を訓練し併せて美的情操を涵養する効果あり。意志と神経系を一致共働せしむること。容儀的訓練は表情的訓練を施行する基礎となる。動作は総て優美を主とし何等の意味を表はす如くになすこと。
- D 学校遊戯法の研究盛んになると共に出版多くなりしが舞踏・唱歌遊戯などの小部分に限られているので海外の教材を探求して解説した。米・英・独・仏・伊各国より関係の書を集める。題目の新奇・方法の斬新で趣味が豊富である。用具の製作は熱心な工風に依って簡単に得られる。現在盛んに使用されているタンバリンは古い味噌濃の底を抜いて、紙を四五枚張り乾かして礬水を引き小鈴を数個つけていた例は、明治人の面目躍如たるものがあり古き佳き時代を十分に偲ばせている。
- E 舞踊の様式を高雅にする。身体の運動を幽艶情媚に或は美麗に姿態百出の観あらしむる。簡易なる行進運動の外は唱歌しつつ運動せしむるは生理上不適当なりとす。

各書の教授法と音楽について

A 生徒より代る代る教室前の位置に立たしめ各生は之を横範として演習す。教師は其の側にありて弹奏す。洋琴の備なき場合は風琴(オルガン)にて奏せしむ。音楽は知名の士の歌曲を用ふる。

B 演技者を二分し一方は動きをせしめる。一例をあげる——仁義の舟に波立たず。は動作する符号になる。表出体操は唱歌を個人にて謡い得る程に教授し其の歌意を玩味したる後動作を教ふる。その特定の唱歌を黙想すると同時に之に應ずる身体運動をなすべき一種の遊戯法を案出せり。

C 各運動は予想外に運動者疲労するものなれば余り長時間を継続すべからず。一種の運動法は少くとも十分間の休憩を与えて他を行ふべし。普通の号令を使用せず和絃の演奏に拠て終止させる。音楽の伴奏または各運動に用ふる歌曲の伴奏を成すを可とする。第二部の各種は始め十分歌意を知了せしめ、次に運動に着手す。

D 三拍子、四拍子の進行曲を用ふること。歌曲は運動中適宜な処で歌ったり、運動後に歌ふも可なり。女子の姿勢を矯正する為には、綿つみの箆は成るべく深いものがよい。ピアノの弹奏はオルガンを代用するも差支えなし。

各書の題目とその内容()は作品数を示す。

A 第一章 準備法——集合・解散・整容・休憩・番号・整頓・転回・行進・駐足・行進間転換・方向変換・編列・第二章 躰操法——徒手体操・啞鈴体操・模範啞鈴演習・球竿体操。第三章 遊戯法——等分行進(分列・四列・交叉)連鎖行進・変式行進・十字行進・対向遊戯・方形行進・花輪行進・カレドニアン・クワドリオン・ランサーズ・コチロン・スケーチング。

B 第一章 初等遊戯——競争・循環的競争(擬馬飛び)障碍物・装束・巨囊・鬼ゴト。第二章 高等遊戯——テザーボール・ローンテニス・テーブルテニス・バスケット・クロケット。第三章 表出体操——池の鯉・雀鴉・春野の打球・兔と亀・桃太郎・愉快々々・飛び来るトンボ・蜘蛛・川中島合戦・旭に匂ふ山木。第四章 舞踏的遊戯——舞踏的方形行進・十字行進・ポロネーズ・ショッテス・クワドリール・カレドニアン・ランサーズ・コチロン。

C 第一集 第一部——容儀的訓練・身躰の姿勢(躰を真直にして硬固ならしめず脚を溫和に股関節より揺動し足趾を稍々外方に向けて立ちたるは即ち完全なる姿勢なり。希臘人曰く「人の精神は歩行に依て顕はる」と。

優美なる思想を涵養せんと欲せば先づ歩行の姿勢より矯正して漸次各部に及ぼすを要す。次に第一節より第二八節の演習を示す——頭部・肩・両腕・上体などの回旋・前屈・後屈・側屈など・氣息の訓練・調音的訓練。次に第一節より第二四節の演習を示す——腕の8の字回旋・腕・臂の屈伸・双肩揺動・片立膝・腕の前上拳など。

第二部——表情的訓練 expression 表情とは躰操を組織する特殊の点なり。① 意志を神経系と一致共働せしむること。② 如何なる動作と雖も何等かの意味を表はす如くになすこと。③ 動作は総て優美を主とする。表情的訓練の方法としては数多くあるべしと雖も、予は其動作を音楽に伴ひ或る歌詞の意義を四肢体軀の動作に依て表情する方法を採り。即ち恰も遊戯体操の一部と容儀訓練の一部と女子躰操の一部を混用せし如きものなりとす。表情法に二種あり。一を単純式表情とし二を聯合式表情となす。(一)は一人にても数人にても行ふを得べきもの。(二)は二人、三人、四人以上の聯合を以て始めて一章の完全なる表情を為し能ふものにして、規定の人員を増減あたわざるものをいふ。二人聯合は始め奇生の動作を熟せしめ、次に偶生に動作を熟せしめ終に連結して施行すべし。特に注意せざる処は総て顔、手、目、足、上体の運動を同時に行ふものと知るべし。舞踏の人的構成に独舞(個)と群舞(群)の別があるが、この聯合式表情は舞台の限られた空間における群舞の原点とみることが出来る。但し日本舞踏の影響を総て受けているので動きの要因は完全に減少している。

D 紅葉狩(紅葉の枝、四季の草花)・三国観笑(黄旗一攻吧、赤旗一西班牙、青旗一米国)(2) 蜘蛛の糸掛(一丈の布、13人が一組になる)(3) 辰宿列張(Ribbon Drill) 旦暮鈴(隊形図9種類を掲載している)(2) 蝶蝶(和絃を以て戯者注意を与ふ。いわゆる前奏である。)蘇国の靈神(主に男生の演技で13例の図示がある)可憐嬢(Doll Drill)は珍らしく腰の揺動がある。(C. Costaの考案で仏国の最近の方法である。)第一あまぞん(垂らし髪・白鉢巻・白襷)夕立(洋傘)白妙(和蘭遊戯で手拭運動の一種)平衡運動(Balance motins 一跳躍を主とする)松葉の末広(白・赤・青何れかの綿布一丈・巾7寸以上・10才内至16才の女性16人が1組になる)・メイポール(2丈の布)・喜怒哀楽(運動要因の一例を示す——頭を左方に屈して手の第一指を口に悲しき声を発して、双手を顔になど)・空想(扇を持った一種の表情運動)(2) 御給仕(茶盆と手巾一枚を持つ)・空想(一種の表情運動で扇を手を持つ)・第二あまぞん(17行進と16姿態はその場の動きと行進が交互反復になる)箆を手具にする(2)・肩部色章標を特徴とする作品(2)・竹輪・

槍と楯・羽古板・紅提燈など。手具のない6作品は譜面付きである。

E ① 唱歌列舞——下級女生用(6)・女生及男生用(4)・女生用(4)・男生用(2)・中級女生用(1)・メヌエット—女生用(2)・② 舞踊列舞——女生用(3)・高級女生用(4)・③ 換球唱歌列舞(ゴムマリ)(2)・④ 列舞適用行進——女生用 ⑤ 行進列舞——女生用 ⑥ 歩法練習は30種類 ⑦ 舞踊連結法は25例あるが、これは最近注目を浴びているフレーズの早づくり法になっている。

F 第1章——舞踊会に出席する者の注意事項。第二章——舞踊準備、第三章——用語解説、第四章——黙礼法、第五章——方舞及対舞——クワドリール(単式・複式・併式・独式)、カレドニアン、ランサアース、コチロン、第六章——円舞・ポルカ・マーチポルカ・ラインレンター・ショッテシ・スケーテングダンス・マジョルカ・ツイステップ・ウオルツ・タンツライゲン各遊戯書は翻訳に関する違いが幾らかみられている。

各書の運動要因と表出的要因の特徴について

①と②は区分を示している。

A ① 花環行進は第一演習より176の歩数に終始している。次に上肢の運動例を示す。相手と右手をとる、左手をとる、右肘を組む、左肘を組む等の単純要因である。下肢の運動例——歩は前進・後進・回転など。第二演習は連鎖行進の反復になる。② 対向遊戯の歌詞の例——織りなすにしき桜にぼたん。いばらにすみれ春こそよけれ。表出要因——1番生と5番生は斜進して上体を30度前方に屈し目礼す。或いは腰をかかめて門下を通る。

B 池の鯉——① 下肢の運動は肘部・肩胛部(両臂は前より上方にあげ側方におろす。次に反復する。肩胛部を後方に振る(鱗振るの意味)肘・指部・肩胛部・肘部、むしむし(団楽の意味で両臂上挙四回)。② 各作品の表出要因の特徴をみる——太鼓を打つは肘関節の運動になる。足踏は威勢揚々勇ましく前進を。喇叭は右手を口前に次に左手を口前に。千仞深き荒海は軀軀を前方に屈折し両指先は地に着くまでと表出の工夫がみられている。

C 流れの曲——右手体前回旋、左方反復、両手前より側方へと反復、体前を円形に、右手体前から髖骨へ、以上の運動中下肢はその場を保つ。③ 流れの曲の例——上体を真直にして足の運動の影響せざるようにする。波の上は少しく左側に上脛を屈す。月の舟は上体を少しく後部へ屈曲し徐々に旧位に復すなどをする。

D ① 於旗翻々(おはたへんぼん)の運動要因の分析を示す。()=%手・腕・臂の各種運動—44, 下肢—11, 上肢下肢が同時に動く—41, 旗を休める—4。

② 表情姿態は坐姿と立姿に分けている。恍惚の姿態は急に体を左足に保ち右膝を屈す。この場合は重心が移動するという難度のある表出に入る。また驚きの姿態は全指を離隔する。楯は防護の姿勢に保つなど表出の工夫がみられている。特に活人画は作品の終止部としての工夫が十分表出されて、全員が四種の水準の変化を表出して数秒間そのままに立ちて終ると記されている。現在の作品構成法で最も参考にしなければならない箇所であり、また若い世代・劇画世代が関心を寄せる終結法になっている。

E ① 唱歌列舞——上肢の例—臂上挙、片臂上挙、アーチ、右手連手など。下肢の例—揺籃歩、交換歩、交叉回転、三踏回転(ワルツ)・足踏歩(車輪片道)・蘇格蘭跳躍など。② 水神の舞—正面に対し半円列に整列する。動きの例は膝座する間に円くした両臂を徐々に頭上にあげるなど、また上体は徐々に前方に屈すとなる。次に注意事項として腕をできるだけ高くと指示がある。表出体操・表情体操に対して美的遊戯の運動要因を比較してみる場合は、呼数に長短の使用の違いがあるので動きに流れと幅がでるのが後者である。また直線的に対する多少の曲線と、緊張度の強に対して軟度がみられるという比較ができるのである。

作品の発展展開については、各書が第一演習～第八演習のように演習展開として構成しているが、Fのように第一段～第八段の構成もみられている。演習は実地の練習で学問、諸技芸などを繰り返す習うことに広く使われていた。また一段二段の展開は歌の付かない箏の名称であるが、昭和11年の体操教授要目解説書の作品のなかでは「クワドリール」の対舞の展開にみられている。当時の作品展開に関しては一応使用上の規定範疇があったとみてよいようである。

戯場①と服装②について

A ① 東京市内の如き運動場などない土地に採用する必要がある。降雨の際室内にて演ぜしむるに適せり。② 束髪に洋服着用・詰襟にゲートル・太鼓帯の和服装がある。

B ① 多人数の際は一列、内外数重の内列を作り、相隣れる各人の距離は両臂を伸ばしたものより稍広くする。このように戯場と取り扱ひ方の工夫によって、池と鯉又は池に向かふ表出要因を考慮している。② 詰襟服

にゲートルを着用している。

C ① 体操場又は普通教室の通風に注意し塵埃の起生せざる所を選択する。② 着衣は普通でよいが身体各部の運動を自由ならしめ、脛部を拘束せざるよう袴を着けしむるを要す。いわゆる女学生姿で扇を手具にして踊るのが特徴のひとつになる。

D ① 余り直接的ではないが一例をあげてみる。紅提燈は暗室若くは暗所と心得て行ふこと。② 作品毎に人員・用具・音楽の提示はあるが着衣は普通通りになっている。

E 円舞は常に左方へ旋回するを普通とす。上達した後は右方へ旋回す。次に左右交互に旋回するを可とす。然らざれば眩暈を覚ゆるに至るべければなり。② 男子は燕屋服、女はこれと同等位の無地の服を着用す。靴は黒短靴（普通は袋鼠の皮）を穿く。

創作ダンスの歴史的変遷について

文久・2・3年——横浜の外人によって社交ダンスが紹介される。

M・8——愛知師範学校で若干遊戯を行なう。

M・11——体操練習所が設立され日本の学校体育は一応その体制を整える。同所主任リーランドの導きで手具中心の新設体操術または普通体操が研究され若干教師も養成できるようになる。

M・16——鹿鳴館落成し欧化主義の波にのり学校の一部にダンスをとり入れる。東京女子高等師範学校ではダンスの会が催され、海軍軍人・大学教師も加わり、生徒は東髪に洋装で踊る。

M・20——東京の幾つかの女子校に「舞踏」導入の試みがなされる。

M・22——鹿鳴館のダンスは政治的事情により禁示される。

M・33——遊戯関係の出版書が多くなり、遊戯が具体的に尊重されるようになる。即ち活動性に欠けた体操に対する不満が遊戯研究熱になり、女子体育観を推進するような理念的な方向づけが求められ始めた。

M・36——日本体育会編「新撰遊戯法」に表出体操として兎と亀、池の鯉が紹介される。これはダンス的内容の模倣表現に入る。舞踊的遊戯の基本ステップ(waltz・polka・schotisch)などは17世紀ヨーロッパのコートダンスのステップが輸入されてから総べてのダンスの基本移動法になっている。

T・2——学校体操教授要目公布・学校体育のなかでようやく遊戯を重視する。運動は体操・教練・遊戯と分

類される。行進(フォークダンス・ギムナスティックダンス)と動作遊戯(感情発表的な既成作品)がダンス的内容である。

T・15——改正教授要目公布、体操・教練・遊戯および競技は①競争遊戯②小学校3年まで唱歌遊戯③全学年の行進遊戯(5学年のマウンテンマーチなどは運動会のフォークダンスとして、長く全国に親しまれる)男子は一学年のみとされていた。

S・11——学校体操教授要目公布、運動は体操・教練・遊戯及競技と分類され、弓道・薙刀・水泳・スキー・スケートと内容の拡大をみる。ダンスの内容は基本練習・唱歌遊戯・行進遊戯となり、小学校1年より高等女学校5年まで教材が配当されていた。基本練習は基本態勢と16の歩法があり、男子は2年までの指導になる。

S・16——体育は「体錬科」とひとつの名称に縮小される。遊戯は「音楽遊戯—中等学校は音楽運動」となり基本練習に重点をおき技巧の末に走らざるよう特に留意点が示されている。

S・22——学校体操指導要綱公布——従来の教授中心の形態から児童生徒の自主創造性を重んじる新しい方向に立った。ダンスは生活環境・自主感情から取材して創作的表現に導くという全人教育としての身体活動が期待されたのである。

S・24——学習指導要領体育編により具体的指導例が示される。体操中心からスポーツ中心となり、一斉指導は児童中心のグループ学習になる。多くの種目にシーズン制がとられてオールラウンド主義になりスポーツのレクリエーション化が期待された。ダンスの名称は児童の側面よりリズム遊び・リズム運動と改められ、リズムによって楽しい活動を誘発する学習が期待された。そしてリズム感覚を育て集団活動に参加する機会を与えて、社会性の発達を計ると同時に好ましい活動の方法を会得させるという目標が設定されたのである。前要綱では男子三学年までの指導が更に四学年となって、その学習効果に期待がもたれたのである。

S・29——学習指導要領体育編の改訂。体育の目標は身体的発達・民主的態度・レクリエーションの三角度より整理される。リズム遊び・リズム運動の内容は経験の表現(模倣を含む)・フォークダンス(歌を伴う郷土的な遊び)の二つの質に別けられる。表現学習は「協同して一つの目標を達成する」というグループ活動によるグループ表現の価値が明確にされた。郷土的な遊びでは生活環境の中から取材し、正課体育時以外の生活にも役立つように考慮されている。男子は6年までの指導になる。

S・43——新学習指導要領，運動文化として明確に位置づけられ，名称は「ダンス」と変わる。表現や創作のグループ活動によって「とらえ方，表わし方，まとめ方，み方の一つの系統学習のしかたを身につけさせる上で新しい役割を果たしている。

S・53——改定新学習指導要領。ダンスは「表現運動」と名称づけられる。感動をもって観た対象をリズムカルな感じのある動きで続けられるように，これまで以上に発達段階に応じた学習指導が望まれている。各運動領域とともに低学年の基本の運動の取り扱い方が問題になったが，発育発達の必要から言っても動物などの遊びが中心になるのは当然と考えられている。

S・11年 体操教授要目の主要ステップについて

各学年の段階に応じて作品毎に主要ステップが動作と共に明示されている。小学校1・2学年——ウォーキングステップ（以下はステップを省略）スキップ・スタンブ・ランニング・普通歩。第3・4学年——ツーステップ・ポルカ・スライド・ワルツ・マズルカ・ホップ・スキップの前進と回転。側進の練習，前方前進に続いて後方前進，両手振動とホップの結合，グランドチェーン，バランス，フォアエンドバック，ツーステップ回転，ブレッキング（跳んで踵を前につけ足を換える運動）

第5・6学年——スケートティング，シャティッシュ，フォローステップの二拍子，ヒールエンドトウポルカ，バランス，レドアポルカ（このステップはマズルカと連続し足を換える歩法として練習するとよい動きのつながりの理解になる），前後に三拍子のバランス，ギャロッピングの側進，普通歩のその場回転，交叉回転，ツーステップと屈膝挙股，キック，ホップ回転，ランニングと足踏，平均歩回転（平均歩はスケートティングのこと）。

高等小学校の部——バスク（リープを正確に行わしむ）ミニエット，側方バランス，ジャンプ，ワルツステップの後進，ブレイク，趾踵歩，セット。

女子中等学校の部——基本歩法は高等小学校の部と同じである。三連歩ホップ，ワルツラン，ワルツターン，クッドリル（4人の対向列で行なう）の主要ステップ——セット，ライトアンドレフト，ターン，レディースターの4種類で5段まで踊る。滑歩，リプターン。

師範学校女生徒——唱歌遊戯「秋の夕暮」——足の交叉前出と膝の屈伸，静かな普通歩，前方前進と後方前進。

以上は各作品毎に示された「主要ステップと動作」のなかの主要ステップである。この時期の動作は全身的と

いうよりは上下肢結合運動が多く，優美ではあるがダイナミクスに欠けている。この上下肢運動を総計すると，その出現率は2:1でステップが多くなっているが，本文を調べる場合はおよそ同率になっている。遊戯期，教授要目期ともに動きの要領・方法などに関する文章表現は困難を伴うのであるが，最近は新しい技術で解決をみている。

松本はダンスの学習・指導・研究において最低限必要と思われる用語を562に収集している。舞踊の素材としての身体を表現媒体となりうるように改変するための基礎的な身体運動に関する用語は150である。次に分類を示す。① その場の運動（後に記載）表1参照 ② 移動運動——歩く・前進・後進・滑る・スライド・走る・はう・回転・自転・跳躍・踏み切り・着地・片脚とび，両脚とび・ホップ・ジャンプ。③ ステップ20種類中，ピボットターン（バレエ基本テクニック）を除けば総べて教授要目と重複している 一表2—

体操教授要目の教授上の注意事項について

明治遊戯期の教授上の注意事項は前述のように事始めの観に尽きている。① 生徒を代る代る前に立たせて模範とさせる。② 演技者を二分し一方は唱歌一方は動きをせしむ。などである。これが30数年後になると各作品毎に必ず教授上の注意事項が加えられるようになる。

小学1・2学年——国旗に対する国民的思想を養ふ（日の丸の旗）・連手行進にて協同的精神を養ふ（日の丸の旗）・動物愛護の気持を養ふ（鳩）・兵隊さんにつき予備知識を与える（兵隊さん）・飛行機につき児童の知れる所を話しむ。自由に飛行機の飛ぶ様を表現せしめ順次教材の形式に引き入れることも興味深くす・熟練後は自由の方向に行はせると興味を増す（ヒコウキ）・花の形は自由に工夫させる（てふてふ）・協同運動により協同精神を養ふ（縫ふてゆく）・リーダーには自由の表現をなさしむ（私のまね）。

小学3，4学年——春の花・春の鳥を想起せしむ（春が来た）・歌詞による国民的思想を養ふ（かぞへ歌）・都市の小川を見知らぬ児童には絵画によって会得せしむ（春の小川）・歌詞より受ける情趣を十分に味はしめ曲より受ける優しき等により優美な動作に熟練せしむ（舟の旅）・おじぎの態度と気持ちを指導する（ご挨拶）・音楽によって競争的遊戯を行わせる事故形式の動作に陥らぬよう注意を要す（ひきくら）・自由に行はしむ（ひきくら）。

小学5・6学年——水師營の会見につき其の状況を想

起せしめ人類愛の思想を養ふ（水師營の会見）・歌詞と動作により田舎情景を想像せしむ（朧月夜）・幼児を追想し郷土愛の気持ちを養ふ（故郷）・協同的精神を養ふ（ぶらんこ）。

高等小学の部——柳に吹く春風の情味を知らしむると共に桜に吹く春風の情景を想起せしむ（春風）・幼き頃を想起せしめ友の愛母の恩等を懐想せしむ（幼き頃の思い出）・葡萄の種蒔より穫入れまでの動作を実際的に動作せしむ（ヴァイヤード）。

女子中等学校の部——リズムを十分に理解せしむ（グリーティング）・古き都の往時を追想せしむ（摩楽の都）・主眼点は女子の美しき姿勢を保持した軽い歩き方を練習する（クワドリル）・動作の優美な訓練をする（ポピー）。

女子師範学校——秋の夕暮の静かな気持ちを出させることに注意する（秋の夕暮）などがあげられている。

学年が進むに従って技術獲得の巾が広がるようになる。その押え方の方法として、作品に対する予備知識が必要なりと強調されている。またねらいの中心に快活なる態度養成を据え、更に協同的精神の陶冶を強調し、加えて自然に親しむ、動物愛護など教育の望ましい方向への内容の充実が計られていた。特に作品によっては自由な表現を楽しませる教授によって、望ましい行進遊戯形成へ導くという注意事項になっている。

基本運動について

明治遊戯期は基本の運動よりは基本歩法が重要であった、ステップの反復練習によって作品が楽しく踊ることができたのである。次いでワルツ調時代になると漸く全身の運動に変るのであるが、依然として基本歩法を重視せざるを得なかった。最近では基本運動とダンスのウォームアップが時に重複したり、その活用はさまざまであるが、この考え方のポイントは、生涯体育への結び付きで質と量を考慮するいき方も望まれていると考えている。

美的遊戯書の「氣息の訓練」と、最近ジャズダンス教室で実施しているヨガの腹式呼吸法は多少類似点がある。違いを生ずるのは施設・設備・服装などの相違によるものであろう。

明治遊戯期の基本歩法について

・ 踵の上下 Fersenheben und = seucken ①踵をあげ ②之を静かに下す。元来は 拍子三踏の ツーステップ歩法。・ 膝屈伸 Kniewippen ・ 下跳躍 Niederhüpfen 1 足を以て前方又は 側方へ跳ぶ。・ 上跳躍 Aufhüpfen 踏み付けた足にて少しく跳ね上る。・ 踏歩

Stampfen ・ 跳歩 Hopsergdug 常歩の後に足蹠にて軽く跳び通常歩より一層高く膝を挙げる。・ 鸛鳥歩 Storchgang ①左足を屈し ②その足を前に伸ばし ③その足を前方に踏みつける。・ 後置歩 Nachsteilgdug Kiebitzgang 又は交換歩 Schrittwechselgang ・ 揺籃歩 Wiogedgug ・ 水雞跳躍 Kiebitzhüpfen ・ 蘇格蘭跳躍 Schottischhüpfen 水雞歩の最終歩の後に同足で上跳躍をなす。本来は二拍子である。・ 重複蘇格蘭跳躍 Doppel Schottischhüpfen 四拍子の走歩で水雞歩を始めたる脚にて2回以上跳躍をする。同時に他の足を前方又は後方に振動する。・ ガロップ Galopp-hüpfen 一拍子の歩法で側方にもできる。・ 腕座Knien ・ 臂の動揺、臂を温和に屈し側方より徐々に下垂する。・ 一拍子 Zeit 一呼或は一歩時なり ・ 拍手 Händeklappen ・ 二重拍子 Doppel = Händeklappen ・ 階段歩 Steigegang 階段を登る時の膝を高く上げる。・ 振脚跳歩 Schwenkhops 三拍子の歩法で ①左足を一步前進 ②右足を下跳躍で左足の所に踏み付くと同時に左足を前方に振開し右跳躍で上跳躍をなす。同時に振開したる脚を内方又は外方に屈曲す。・ 摺足 Schleifen ・ 歩行回転 Schritzwirbe ・ 交叉回転 Kreuzwirbel ・ 周行 Umzug ・ 舞踏連結 Tanzfassung. ——個人一種、集団二種、二人組が12種あり細かい配慮の説明が加えられている。

舞踊の発生に関してはこれまでさまざまな角度から説明されている。その一つに高等動物の踊りで立証されている例がある。それはオレンジ・イエローの山雞の群のなかの個の強烈的な踊りである。踊り上手の雞達を証明するように、基本歩法に雞の名前がつけられているのは微笑ましく感じられている。また上跳躍下跳躍のように苦勞を伴う翻訳の妙に感嘆するばかりである。更にこれらの基本の歩法を5・6種組み合わせているのが舞踊連結法である。これは25例であるが現在の効果的な表現創作法のフレーズ・フレーズの早づくりに類似点があり、作品構成に対する着実な理解があったと考察している。

「その場の運動」と各作品の比較について

遊戯期を代表する作品として「第一あまぞん」をとりあげる。第一あまぞんは頗る鬪争を好む女族の称で古代ローマ式の衣服を仮装するのが原案であったが、実際には振り下げ髪・白鉢巻・白襷で演じ、6000人の観衆を湧かして習日の新聞を賑わした作品である。作品構成は第1演習より第12演習までであり1演習はabに分かれ、aはタクトの早い徒手体操で6演習まで反復される。bは戦いの模倣で、槍・岩・斧・楯・矛・箭頭を執る（さき

頭部で真っ直ぐの意味がある。矢の音がせんに転じている)・韃(たずな)・短剣・鉄片を投ずるの9演習の他は類似的な振付になっている。また作品の終止は正面に対する活人画の構成になって適切である。

活人画の構成の例

運動の終りに於て戯者は直ちに、各自は次に述べる如くに、前述せる各運動をなすべし。

第一列は	第四節を	} ……同時に行ふ
第二列は	第六節を	
第三列は	第十四節を	
第四列は	第十八節を	

運動の表情に十分の注意を払ひ、数秒間其ままに起ちて終る。

矛と楯の手持を持って各章毎に「右脛前面突出」の反覆があり、また水準の変化として「右脛後方に引いて屈す」があり所謂マセゲームの原点とみてよいと考えている。

第一あまぞんの作品は運動会に発表され6000人の観衆云々と報じられたとすると、どのような場所かという疑問がでる。そこで^{注1}運動会の起源について述べてみる。この起源は明治20年頃とみられている。その形態は1校とか各校合併ないし連合の運動会の形で開催される。また東京では府下ないし市内小学校の連合運動会が行われたのでその場所に初期は校外に遠足して神社・寺・海岸・山などで簡単な遊びや体操を行って帰校するという形態がとられていたようである。そして間もなく校内で運動会を行ない祝祭日の行事の一部となる。

運動会の目的は当時森有礼文政下にあつて「教室外の教育」重視の方策のもとで、欧米人なみの体格体力養成を目指すと共に、強兵育成の目的でドイツの兵式体操を導入し、それと関連した兵式訓練が運動会の目的だったと考えられていた。明治遊戯期の各種運動要因を全般的にながめてみると、直接的で活動性に欠ける、平坦で画一的なリズムで各作品が形成されていた。これが教授要目期になるとワルツ調が強調されると共に、上肢下肢の結合運動になって明治期で期待された美麗な動きが、漸くみられるようになる。しかし表1でみるようにずらす要因は、現代舞踊の新しい技術に入り、昭和20年頃まで出現しないのである。また「ずらす」要因と質は違うのであるが、アメリカを代表するモダンダンスカンパニである Martha Graham (1893……) の Contraction (軀幹を前方に強く収縮させて臍部を後方に強く引く) と release (コントラクションの対語で収縮を解くこと) がある。この全く新しい技術によって無表情な胴体の表現を最大限に豊かにできる訓練法になっている。この技

術はモダンダンス・ジャズダンスのツイスト技術をも容易なものにしている。ある高校創作ダンス部は90分のトレーニングに対して、フロアでの40分練習をグラムテクニックに当てているという実情もある。

現在は発達の特性と技術の関連から基本要因と伴奏音楽を考えている。

小学校期——低学年＝好きな題を大まかにとらえて～のようになって跳ぶ・走る・ころがるなど、いろいろな運動を身体全体で動く。単一な動きをたくさん見つけてつづける。中学年＝～のような感じの変化をつけて跳ぶ・走る・伸びる・縮むなどをして続ける。～のような感じを身体の部位を意識して動く。友だちと動きながら合わせて動く。高学年＝対象の底に流れる感じをあたながら、個人やグループの表現したいことに適わしくとぶ・走る・伸びる・倒れるなどの動きでつづける。～のような感じを身体の部位、動き、力の起伏などの観点で誇張して動ける。また具体的に題をとらえる手立てとしては次の事柄があげられている。三学年＝軽くて柔らかい感じ。対応した感じの動きのある包括的な題を考える。四学年＝重くて柔らかい感じ(おもちはよい題材例である)また急に力が爆発する感じや組み合わせられたり次次動く感じなどからとらえてみる。五学年＝はげしい感じなどから自然現象を考える。六学年＝鋭い感じ、対立する感じなどから具体的にとらえてみる。

中学・高校期——① 動きをみつける段階として、楽しく軽やかな感じの動きをみつけ、リズムカルな動きを楽しむ。② 動きを広げる段階として現則的なリズムで固い感じの動きを、感じにふさわしくのびのびとできる③ 動きのデザインやリズムの違いを確かめ、感じにふさわしく特徴ある動きをみつける。

次は動きを楽しく確実にする伴奏音について述べてみる。明治遊戯期における刊行書編纂の発意となった「女子体操は須らく楽器を奏して興味を副ふべし」は教授要目時代を経て今日まで多様な変遷経過をみせながら、今日ではいよいよ多彩に確実に定着しているとみられる。そこで表現運動学習指導上における伴奏音楽の例を述べてみる。

小学校期——楽しい感じの曲によって自由に体を動かす楽しさを味わう。1人や2人でピアノや打楽器の伴奏によって体でつくり出す動きの面白さを感じとる。最近では或る時期みられたようなピアノ活用は減少している。弾き語りや困難であることと、子どもの活動全般が掌握できない問題はあがあるが、部分的使用は新鮮さが子どもに

喜ばれている。2人組で太鼓の響やタンバリンのリズムに合わせて体を極限まで動かして踊る。明治遊戯期には味噌濃の底を抜いて廉価に製作できたタンバリンは、最近品種も豊富になり、体の各部位で叩いたり、指先の器用な扱いで特殊な伴奏楽器になっている。ピアノやレコードを用いて体育館いっばいに大きな動作でスキップなどをする。打楽器や言葉のリズムなどで伴奏をくふうして調子よく踊れるようにする。また音楽はシンセサイザーなどの曲を用いて、どの授業でも流しながら進める。各グループに合うレコードを集めたりいろいろな楽器を揃えたりする。

中学校期——リズムカルな体づくりと動きづくりでは、音楽やリズム楽器を生かして楽しく動けるように方向づける。ポップコーン・ダンスウィズミー・卒業試験など誰にでも好まれる曲を用意して行くと、動きが出やすくリズムカルになりやすい。伴奏はいろいろな内容に合う曲を一つ選んで与えたり、数曲用意して選択させるなどして動きづくりを助けるようにする。また情景音楽からSFの世界などから数種類用意して編集して使用させたり、一部は打楽器で工夫させたりして表現が生きるようにする。^{注2}松江市立女子高校創作ダンスの授業時——グループの作品毎に伴奏係が伴奏音を創り発表に備えていた。柳行季に小豆・バケツに木片や石ころを入れる等で必ずしも美しい音ばかりではないが、自分達の創作作品に合わせられた満足感に輝いた楽しい授業参観は何時までも記憶に残っている。始めて行った授業分析は^{注3}島根県立出雲商業高校の六次による学習計画の創作ダンスである。教師は美しい詩を朗読し「アイスクリーム」で作品構成法を理解させる。今回は伴奏は使用しなかったが、楽しくてという明かるいムードは普通高校との相違があるのではと考えさせられていた。そしてこの時既に高校生達の創作ダンスは踊りこむ活動を学習していたと分析できたのである。

舞と踊りについて

踊るあほに見るあほ 同じ阿呑なら踊らにゃ損じゃ

8月半ば徳島の町は200万人が「よしこの」のリズムに酔いしれるという。この阿波踊りに夢中になる人のことを天水と呼び、これは一文の得にもならないことに夢中になる人の意味もあるとか。よしこのは「よりのこの節」で江戸時代のはやり唄の一種である。定説ではこれが転じてどどいつ節になり、関西方面では明治中期まで残っていた称呼である。阿波踊りはスピードがあるので意外に難かしく長期間の練習に気持ちいい汗を流している様子が報じられている。現在ではこの踊りは単なる盆踊

りではなく、リオのカーニバルに匹敵する世界で最も短いパターンの手足のリズムで、集団が寸分違わずに鍛えあげた手さばき足さばきは最高の芸術である。そして観賞眼を十二分に満足させてくれる。また三味線などの伴奏のリズムも最高であれば、衣裳もよく鳥追笠との調和は完璧である。男踊りは胴長の体型が生んだリズムで、力強くの一語に尽きている。これを脚の長い若い人達がどここなすのか楽しみでもある。

なりふり構わず激しく跳躍する天細女命

日本神語に現われる神名天照大神が天の岩戸に隠れた時、岩戸前で半裸体になって舞い、集まった神々を笑わせて、ついにオオミカミまで岩戸から誘い出した。こうした物語は古事記、日本書紀、古語拾遺などの伝えるところであるが、実はいわゆる記紀神語がつくられた当時の朝廷でサルメと呼ばれた巫女たちが果していた職掌を反映するものとみなされている。後世では鎮魂祭に槽(うけ)をつき、歌舞をして死者の霊をなぐさめる彼女たちも、当時はこのウズメノミコトのように、なりふり構わず激しく跳躍して、神がかりの状態にまでおち入ったものであろうと言われている。しかし天照大神の項を探せばササノオノ命悪ふり行あり、ために天照大神岩戸に隠れ世は闇となったので、諸神相議しアメノウズメノミコト舞をなし、天岩戸から招き出し世は再び明るくなったという。これについては日食の現象と善悪二神の争いとしたり、また鎮魂による死者の復活ともいわれている。古い事典によれば古事記日本書紀にそれぞれ舞と踊りの文字があったといわれており、この区別は明治期まで続いている。

日本の舞踊は能楽・舞楽・三味線楽によるものでも、京阪地方は舞といい、盆踊や三味線楽によるものの江戸での呼称は踊りであった。その区別は明確ではないが、すべての舞踊は舞・踊り・振(ふり)の三つから形成されているという説は昔から一定している。舞は写実を離れた悠長な動き(能)など、踊りは同じく写実を離れているが、四肢を跳躍させる活発な動き(盆踊り)など、振は事物の模倣(歌舞伎)などを指している。普通はこれらが混合されて舞踊ができあがるのであるが、一般に踊りと称されるのは300年来発達してきた歌舞伎舞踊のことであらゆる要素を含んでいるものである。

舞はもともとうろつくという意味が含まれていて、ある限られた区域をうろつきながら、そこを踏みしめて歩く。その動作が舞であるとして、その特徴は現在でも上方舞に見られるであろうし、また日本各地でみられる盆踊にもこのうろつきが反復されるリズムになってい

る。横田地方の盆踊は完全なうろつきであって、とらえどころのないリズムが覚え難いようであるが、逆に誰でも気楽に参加できる条件になっているとも考えられる。最近テレビで放映された隠岐の盆踊も同じようなうろつきであるが、一人の若い男子がツイストを入れて、ジャズ風に踊っていたが、流石現代っ子は盆踊も変容させるのかと感心させられている。

牧畜民族の踊りと農耕民族の踊り

世界の総べての部族達の舞踊を調査した Curt Sachs は、広がる舞踊と閉じられた舞踊をして、男性用・女性用とみなし、牧畜民族の踊りと農耕民族の踊りを対比させている。牧畜民族は足生活環境から下肢が発達して足長となり、一方農耕民族はその生活形態から胴長となる。この豊耕＝地方的ということは重力の法則に従うということで、両膝は合わされ曲げられる。両腕は内側に曲がりながら体を抱くという総べてが中心に寄り集まる。そして西洋舞踊は全く正反対であって、身体も魂も外へ開くという遠心的・外向的である。

比較舞踊のひとつに日本の古典舞踊とヨーロッパの古典舞踊がある。この場合は日本舞踊は振であり西洋舞踊は pas になる。パはフランスの舞踊術語で重心の移動を含んだ動きという意味になる。パは英語の step にあたる語で重心が一つの足から他の足に移動する動きをいうのである。芸術舞踊の分類からこの pas をながめるときは、パに対して踵をつけて能が完成されたのである。この考え方を発展させて en l'air (浮上の) と á terre (地上的) になり、前者は両足が同時に地上から離れる瞬間のある跳躍が大きな特徴になっている。地上的にはこれがないが、例外的なものは徐かなければならない。この足踏の特徴は全世界の舞踊に実に多く出現しているが、地上的舞踊の双壁とみられているのはスペイン舞踊と日本舞踊であり、農耕民族の踏み締めという意味が残っているとみられている。能の歩法は沖繩舞踊も同じで足の裏を見せないように歩間を保って歩き、最後につま先を少し浮かす歩き方である。また北朝鮮人民共和國立舞踊団の芸術作品のなかには、摺り足の側方移動で相当長時間の連続が特技になっているが、舞踊の理想である空中を軽やかに飛ぶという妙技をみせているのである。

ダンスの語源について

律動運動、ダンスは西洋におけるダンスと同義語である。英語の dance, フランス語の danse であり、この

二つは共に古代ドイツ語の danson からでたものであると考えられている。ダンソンはのぼす・ひっぱり・ひろげるなどの意味をもち、特に伸ばすという意味が重要になっている。またドイツではグリムの法則により Tanz と変っている。danson と Tanz には共通の an があり、この語源はサンスクリットの tan に通じ緊張伸張を意味している。矢張り初期から緊張という考え方があり、それが広く共通した考え方もあったとみられている。

舞踊は簡単に分類して原則をたてることは困難である。

以前にも舞踊の分類は試みられていたが、最近のこの新しい舞踊分科はよくまとめられている。① 宗教——宗教舞踊・儀式舞踊 ② 芸術——古典バレエ・モダンダンス・民族舞踊 ③ 教育——体育ダンス・児童舞踊 ④ スポーツ——スケートダンス・シンクロナイズドミニング ⑤ 社交——社交ダンス ⑥ 娯楽——民族舞踊・フォークダンス・レビュー・アクロバットダンス・ジャズダンス・歌謡舞踊・軽舞踊 ⑦ 享楽——ストリップダンス・フローダンス。この分化についてはヨーロッパ中世の舞踊が、キリスト教思想によって迎えた衰頹期と、キリスト教以外の国との発展期等が考慮されている。

C. Sachs は時間と同時に空間のなかに存在する舞踊は「芸術の母」であると、その著世界舞踊史の冒頭に述べ、さらに2世紀のグノーシス派のキリスト讃歌を載せている。すなわち「踊らぬ者は誰も人生の喜びを知り得ない」と。そして世界の多くの部族達は総べて踊りをもっていると紹介している。次にその名称の一部を紹介してみる。精力的舞踊・武器舞踊・技能的舞踊・加入舞踊・田舎舞踊・輪舞踊・貴族舞踊・象徴的な踊り・太陽の踊り・葬式舞踊・発作的舞踊・純発作的舞踊・螺旋回舞踊・護符舞踊・豊饒舞踊・結婚舞踊・戦闘舞踊・占星舞踊・仮面舞踊・個人舞踊・集団舞踊・集団対面舞踊・回帰舞踊・組舞踊・つま先の踊り・対舞踊・恍惚舞踊・開放的カップル舞踊・内閉的カップル舞踊・跳躍舞踊・相対舞踊・興業舞踊・矢の踊り・そわそわ舞踊・片足の踊り・竹馬踊り・出陣の踊り・戦勝の踊り、本能の踊り・観喜の踊り・以上のなかからマイドウ族のアニマルダンスの豊富な動きを挙げてみる。跳ぶこと、ゆっくりした足踏み、足の踏みならし、身体をゆるする、身体を回転させる、リフトすること、横に手を引くこと、横に手を振ること、枝を振る、泳ぐこと、ものに触れることなどが結合されている。ザックスは神々のもつリズムに考えを

向けて、シヴァは世界を創造し、中国では宇宙の調和は舞踊に端を発するのであって、星と神々は踊りながら宇宙をゆきまきしていたのだと。

舞踊の定義について

広義な意味では律動運動であるがレヴィンソンは厳密な定義をしている。「あらかじめ計算された空間にあって、正確なリズムと意識された力学とに従って、肉体が移動する連続的な動きである」これは芸術的舞踊などを中核に歴史的舞踊の経過を広く纏めている。バレエはその起源を正確に知ることは困難であるが、14・15世紀によく行われた暮間狂言・無言劇・仮面劇などから発したというのが通説になっている。1581年に上演された「王后のバレエ・コミック」は多くの楽器に調和して大勢の人が踊る幾可学的混合であった。フランスのバレエはルイ14世(1643~1715)の支持を得て確実な発展をとげるようになる。次いで19世紀に入ると装飾的・幾可学的バレエは、表現的な内容をもつ芸術になり総べての踊りを默劇的動作によって表現される舞踊劇になるのである。

日本におけるバレエ公演は、大正5年の「瀕死の白鳥」が初めて紹介されてから、次々公演が開催されるようになり、次第に芸術的舞踊が大眾に愛されるようになるのである。更に能、日本舞踊、歌舞伎舞踊、民族舞踊の復活、外国民踊の紹介、社交ダンスの愛好など、急速な舞踊の足場がきざかれるようになったのである。

エアロビック・ダンスについて

最近、驚異的な充実と発展振りをみせて米国に大流行しているのがダンス・エアロビクスである。この特徴は単純な短いリズムパターンが反復されていること、またこのリズムはステップが主になっている点は、一面的にみれば明治遊戯期のステップ重視に似る。ただし服装(テニスシューズ、楽な服装でジムパンツにTシャツ)・音楽・指導法が大転回をしている現実には、明治は余りにも遠くなったという長い年月を感じさせるのである。

エアロビックダンスの概念——YMCAの健康、体育全国ディレクターのロイド・アーノルドによれば、フィットネスという言葉は以前は柔軟性、持久力、パワーが重要であったのが、現在では持久力あるいは心臓血管などの効率であると説明する。20~30分間は心拍数がターゲットゾーンの範囲内でリズムカルに身体を動かして、トレーニング効果を得るといふものである。ダンスの歴史は1969年にジャッキー・ソレンセンがプエルトリコにある空軍基地で、TVのフィットネス・プログラムを催

したときに始まっている。彼女はケネス・クーパー博士のベストセラー「エアロビクス」から得たエアロビック・エクササイズの知識を用いて、誰でもが楽しめるコースを組み立てた。1971年に初めてエアロビックダンスはビジネスとして誕生し、サウス、オレンジのYMCAの地下室で6名の女性に指導を開始したのである。

次に内容の簡単な説明を加えてみる。

ルーティンNo.1：ストレッチングの例——「すべての山に登れ」のスローな曲にのせて6分16秒を動く。座位(22種)仰臥位(3種)立位(5種)四つんばいの姿勢(4種)伏臥位(1種)立位(3種)をそれぞれ20~30秒つづける。はずみをつけたり、急激に行わず、左右の区別がある場合はそれぞれ数回をくり返す。次に「タッチダンス」をディスコミュージックに合わせて、10種のステップを数回反復する。

ルーティンNo.2：チョコレート・ハッスル・ライン・ダンス——ステップはグレイクバインを4回(右左右左)=右足ステップ、左足をクロス、右足を右へステップ、左足を左へキックで手を打つ。次は左へ繰り返して16カウントにする。次はスージーQ、続いてウォークとロックの組み合わせを反復し、さらにエアロビックするためにグレイクバインをジョギングにする。このグレイクバインステップはフォークダンスのステップでもあるが、単一で反復される方法がより簡単に取り組めるようになっている。

創作舞踊に携った30年について

なぜこのように急いでこの小論を纏めようとするのか。これについては島大創作ダンス部の機関紙「舞」の2号に簡単に触れた内容でもある。33年前某小学校においてダンス研究授業後に討議会が設けられた。このとき「空間形成法」に関する激しい論争があったとか。当時はリズム運動学習指導に関しては具体的な方法論が求められない模索期であったので、ドイツのメリー・ウィグマンに師事した舞台創作舞踊芸術家が、学校教員を集めた講習会で創作法の理論と実技を指導していた。そのなかで広く重要視されていたのが空間形成法である。その錦の御旗である理論を人体形成法なら理解できるという論点のようである。この時の心理学教官は最近急逝している。この論争に関してこれまでに聞き糺す機会が幾らでもあったのに残念でならない。

私たちが外から受けとる対象は眼・耳・鼻・皮膚の感覚器官によって知覚する。このような生理的機制を経て知覚する形、色、動き、音、光などは場の条件によって

も、同一物を異なっけり主体の構えによっても、とらえ方は異なるものである。このような事実は心理学的にはウェルトハイマアの形態法則—Gestaltgesetz—によって説明されている。(1) 接近の要因—近い距離のものがまとまる。(2) 類同の要因—似たものがまとまる。(3) 共通運命の要因—同時に動くものがまとまる。(4) 客観的調節の要因—前に与えられた配置はそれが少しづつ変化しても、その配置を維持しようとする。(5) よい連続の要因—連続の方向に無理のないものがまとまる。(6)閉鎖性の要因—一つの領域を区切っているものがまとまる。などの法則があげられ、これらの性質をもつものが渾沌とした全体の中から、一つのまとまりをもって分凝することが明らかにされている。分凝されたものには以前の構成要素には無かった新しい性質が認められ、これを形態質—Gestaltqualität—と名づけられている。このような形態の独立の性質をルビン—E. Rubin—は図形と素地として研究し、知覚の資料が空間配置によって著しい影響をうけることを実証しようとした。ルビンの盃のような事実は、あらゆる精神現象は与えられる枠組みによって規定されると同時に、観察する個人の経験や要求などの内的諸条件によっても動かされることを示している。

空間形成法の形成原理の理論展開は象徴的で難解ともいえる。すべての運動を二つの種類に分け、一つの運動を個運動とし他を空間運動と名付けている。例えば一枚の皿をAからBへ投げ渡した場合の皿の運動を空間運動と称している。次に舞踊形成に関連するすべての空間を舞台空間と称し、これを分析すればプラス空間とマイナス空間とでできている。そしてプラス空間は実空間であり、マイナス空間は虚空間という意味になり、運動球体がプラス空間であるとすれば、そのまわりの空間は原則的にマイナス空間である。プラス(有限)とマイナス(無限)は境目をつくる論理も成立させる。今両腕を開いて一つの円周上を数回つづけて回る運動をした場合、その内側と外側の空間はマイナス空間となる。なお運動球体の考え方は、宇宙の中心は自分にあるという哲学がひそんでいるのであって、自分を中軸にしたプラスの空間が存在し、そのまわりには無限に広がるマイナスの空間がある。この空間を軸に舞踊の組立てを舞踊の構造とよび、その空間における時間的経過の組み立てを舞踊の構成と称している。舞踊の芸術は四つの成分をもち、舞踊運動・空間形成・基本形式・基本法則の四つである。舞踊創作の基本形式にはシメトリー、並列、コントラスト、バランスがあり、四単位形式、六単位方式、 Rond 方式、カノン方式は基本法則である。この基本法則は舞

踊創作の基本形式の場合と同じように、固守されるべき性質のものではなく、これを土台にして新しい法則への発展が期待されている。

全国国立大学創作舞踊研究発表大会における昨年度の調査では、形式に則して創作する大学は20大学中8大学であって、その他は自由形式・形式を全く意識しない大学になっている。この傾向は年次強調されるのではないかとも考えられている。島大創作ダンス部は自由形式をとり、主題設定後は厳しいイメージ統一手法を重ねながら次の創作法をとり入れている。① ライトモチーフ(主導動機で歌劇様式を創造したヴァーグナーは、この考案によって歌劇内容の音楽表現に一層具体的な写実性を深めている)・サヴライトモチーフ・コントラモチーフなどの変化と統一の作品構成法は一例である。

片方べた足片方爪先の基本練習

江口隆哉は「片方ベタ足、片方爪先」と書きつけてその通り動く練習を始めている。次は「片方ベタ足、片方踵」と書いてそれを動きこれを数学的に考えながら足を床から離さない変化だけで2000種、3000種にもなると、その驚きを語っている。次に膝・脚・胴体・首・腕などの動きを加えたらどうなるか。また数ヶ月して身体の関節を考える。そして最後には組合せの公式の対数計算によって 約226000 0000 0000 0000 0000 0000 0000 0000 0000 0000 000000 となり人間の動きは無限であると理解する。後にメリー・ウィグマンの舞踊学校のゲルベザール稽古場で「片方ベタ足・片方踵」のレッスン風景をみて入学を決意している。この種の足の裏の左右同時訓練はヨガにもみられている。22年前にこの現代舞踊研究所夏季講習会に2年続けて参加し、修得した基本練習は現在も続けている。創作ダンス部のキャプテン達は、8年前から女子体育連盟主催・夏季女子体育研究会に参加しているが、昨年は特にモダンダンス研究を目標に参加したのが現代舞踊研究所である。次に授業で実施している基本練習で継続の長い方法について述べる。

基本運動の項目を分類してみる。第一項目—足首屈伸2種・両足跳と全屈膝の連続、片足挙振(前、横、後方)バランス、肩部位の緊張(上下と前後)と弛緩、ずらす(前後、左右、斜め方向の連続)、急激な緊張と弛緩=脱力はその場と前後、左右、斜方向の連続、移動と脱力を前後・左右、 $\frac{1}{4}$ 呼の緊張(左右、倒を左右に、前方バランス、移動して自由ポーズ。

第二項目—左右その場の振動(重心が先に動いて振動を起す)、アクセントで両腕回旋と振動、側方跳びで

腕回旋と振動、片足前出の前後振動、前後振動と前後移動の結合、片足大回旋（前方移動）・ピボットターン、片足大回旋の後方移動・ピボットターン、頸と両肩の部位回旋、ウェスト回旋、体の全回旋、両膝の $\frac{1}{2}$ 回旋（正面向き）、弾力性＝（両臂の前後振動、方向変換で下方から斜上方への突きあげを左右交互に、前進後進のポルカ、スキップの円移動）その場前方踏み換え跳、自由ポーズ。

第三項目——歩の前進後進（両腕は斜め上方に伸ばす、柔軟を強調した舞踊歩）、8の字移動歩、大股歩の前進後進、逆8の字移動（後進）、toeと大股歩の結合で前進後進、toe＋両膝屈出で階段歩、ポイントと足のくの字結合で後進、側歩、側歩と後半のテンポの変化の連続、側方 $\frac{1}{2}$ ターン、ステップターン、ビルエットターン、オーバークロスターン、3回連続クロスターン、8歩の亀甲歩と応用（1・2呼のターン、3・4呼のターン、5・6呼のターンと亀甲歩の連続）、自由ポーズ。

第四項目——その場両腕の捻り、重心移動と両腕捻転、側方移動と両腕捻転、その場＝片足前出のバランスと捻り、その場＝片足側出の上体捻転、腰部捻転とターンの結合、自転して方向を換えて連続する。焰運動 ① その場＝上方と前方へ両腕の滑らかな流れ ② 前方と背上方への結合、③ 体後方へ8の字捻り ④ 両腕上方伸で8の字捻転、⑤ 身体の低位置より両臂の8の字連続で上方へ伸展する ⑥ 側方へ片腕で菱形を全身的に描く、⑦ 小菱形を速度を変えて軟度を強調する ⑧ ⑥を前方へ片足前出で菱形の軌跡を追う。捲波運動——おおよそその場で足と腕で波形を描く、斜前方へ前後の軌跡で捲波を動く、自由ポーズ。

第5項目——強度のポルカ跳躍（前後進と片足回旋と片足前方伸展を連続する）、テンポの変化する走 ① 前進後進 ② 側方進、8の字の歩、円移動の走、その場＝ポイントと両腕側方伸展より上方へ漸次体前より低位置でポーズをとる。リープ活用の側方回旋跳躍、両足踏み切り側方回旋を2回連続と側歩の結合、リープ前進と走の後進の結合、片足交互側方伸展跳、方向変換を伴う片足伸展連続跳とフルターンの結合、カットの前進後進、応用カットの前進、自由ポーズ。

第6項目——（ワルツ）片腕上方伸展のジグザグ前進と後進、（ワルツステップは三歩目を小歩にして重心を移動するのが鉄則である）、ワルツステップとターンの結合のジグザグ前後進、方向変換と応用ワルツの結合、（弥次郎兵衛のイメージでバランスをとる）、その場＝
① 上体の斜め前屈、② 後屈で反対側の踵を掴む、
③ 上体前屈で両肘は床上に着く、④ 床に臥す＝片足

を反対側の肩に着ける。⑤ 反り身3回と床を嘗めるように立ち上がる。側方へ片足後挙のバレリーナ跳、回転を伴うバレリーナ跳、リープターン、応用リープターン（片足軸のフルターンになる）、円移動で前後開脚跳、後方踏み換え跳びをする、自由ポーズ。――はジャズダンスの基本練習でもある。6項目の他に第二課程があり、① 春の歌、② 狩の歌合唱、③ ヴェニス舟歌、④ いらだちはメンデルスゾーン作曲で華麗な動きになる。

現在国立大学その他では舞踊身体育成法を練習課題としているクラブ活動も相当数あると予想できるのである。この方法はラバンやメリー、ウィグマンなど数人の舞踊家体育家の手によって集大成されている。舞踊のみでなく体育をも一つの目標にして合理的に組み立てられ、身体で自然運動を覚えることである。これは三課程に分かれ11項目、9項目の組み合わせである。第1課程について大まかな要領を述べてみる。

第1項目——腕を振る、廻す、横に開く、捻る、腕を上下に振る。①で右足を前に踏みだしながら両腕を上から振りおろす。前足の膝は曲がる。③は腰と両足の足首・膝に弾力をつけて両腕を上には振りあげ、体を浮かし左足を右足の傍をすべらせるように前にだす。

第2項目——肩と腕の運動が主であって肩の運動を腕の上部から次第に指先まで伝達していく性質のもので一種の波運動である。

第3項目——体を前後に曲げることが主になっている。柔軟性が必要で持続的な力の使用で、空間は曲線で、またかなり高度の平衡運動である。

第4項目——緊張と解緊張の連続した流れ、およびそのときにおける呼吸法が中心であって、浮かす力が使われる。

第5項目——片腕で物を強く突くような運動である。打撃運動や衝撃運動と呼ばれる系統とみてよく、強い力がまっすぐに速く使われている。

第6項目——踵でアクセントをとる歩の運動で、それを強調するために肩・腰のひねりが使われている。

第7項目——脚の屈伸が主になっている。身体の重量に対して足首・膝・腰にためた力を、上方に押し上げるように使用するが、力は持続的でなく瞬発的に使われる。

第8項目——脚をふりあげることによってなされる跳躍運動である。同時異時の跳躍、着地によってリズムは高度になり、力は瞬発的に使われる。

第9項目——連続的な跳躍運動である、リズムでは特に同じテンポを正確に繰り返すことの必要と、空間的

には回転運動に必要な正確な空間の分割の練習である。弾力的な力が常に使用される。

第10項目——けんけん跳が主になっている。解緊も一つの運動になると、そこに力を内包することになる。ここでは跡ぶという力を使用した全身(腰・背・頸・肩)の解緊運動という複合的リズムの運動である。

第11項目——跳躍と回転の運動であって、やや速度の遅い強い力が使用される。以上の各種運動はイラストで詳細な説明があり、運動の要点は無限とまで言える舞踊運動のすべてが実行でき、豊富な運動感をもつことの必要を理解させている。島大ダンス部でも一時練習のなかに組み入れた年月もあったが、最近ではバーレッスンになっている。江口基本の長所は各項目の運動がその場から始まり、移動はその基本の応用形で発展するので、作品構成にも移行できる点である。

モダンダンスの創作理論について

イサドラ・ダンカン(1880~1927)は今世紀初頭、古典バレエ手法に反旗し「新しい舞踊」の狼煙をあげ、次いでこの舞踊を理論づけて確固たる基礎のもとに実践に移したのが、ルドルフ・フォン・ラバン(1879~)、メリー・ウィグマンである。この頃ドイツではノイエ・タンツ *nene Tanz* と呼び間もなくモデルネ・タンツ *moderne Tanz*=現代舞踊とよび、英語の *modern dance* という普遍的な名称になっている。ウィグマンに師事した江口の群舞構成による「プロメテの火」はモダンダンスの代表作になっていて、全国的に97回の公演があり鳥取県に於いても開催されたと記憶している。彼の創作理論は文部省関係にも具申されたと言われているだけに、理解が容易である。

貫通表現——舞踊創作の過程を二段階に分け、創作基盤(心理的欲求・動機・主題の決定・観察)と、構成の段階(表現運動・時間構成・空間構成)の二つの大まかな段階に分けて考える。いいかえれば形象化以前の創作者の内的進行と、外部的な形象化の段階に移るときの橋渡しとなるものが「貫通表現」である。

① どのようなことを表現するか(作品の主題)

② どういうふうに表示するか(作品のスタイル)を決めて作品構成の基準を定めるものである。

作品構成の三要素——① 空間構成 ② 時間構成

③ 表現運動……一般的に言えば4挙動ぐらい動けば表現意図が判断できることをいう。空間構成には運動的空間構成の他に瞬間的空間構成がある。そして群舞構成にも運動的空間構成の他に瞬間的空間構成がある。これは群舞構成に際してAグループの動きに対して、どうすれ

ば調和がとれるか一瞬一瞬の視覚的調和の美しさを狙うのである。だから表現運動・時間構成・空間構成は、創作に際して何れを先行さすかは一概に決めることはできない。

空間構成における美的要素——統一・調和・バランスとして均衡と比例をあげ普遍的な美の解明になっている。

リズム——広義に解明すれば「一定の現象が規則正しく反復される状態」をいい、これを狭義に定義すれば音楽的解明になる。江口はこれを ① タイミング ② アクセント ③ テムポ ④ スピード ⑤ 反復の問題と要素分解をしている。①——時間的な区分に長短がある。②——前後の動きがどんな動きかによって、どれがアクセントになるか決まる、これは相対的に考える必要がある。③——カウントの速い遅いことをいい大体心臓の鼓動を基準にして感じられる。演劇では「テムポが死ぬ」といって、テムポをもって流れているものが乱れたり止まったりすることをいう。④ 動きの味・雰囲気は身体の部分々々の微細な在り方によるが、スピードの活用によって得られる場合が多い。⑤ あの仕事にはリズムがある、この場合のリズムは或るリズムパターンの反復を指していることが多い。このリズムパターンは空間構成における表現運動と同じであって、その内容にはタイミングの変化・アクセントのつけ方・もり上げなど一種の表現要素が入っている。普通二拍子三拍子の場合には二小節とか四小節でリズムパターンを構成することが多い。これは現在の表現学習におけるフレーズの用い方に類似している。

フレーズ——は快い連続を持った一息で隔れるような運動のまとまりで、運動表現の性格を出現させる最小限の構造化である。同じく舞踊用語によればリズムパターンは単一リズムと複合リズムとの解明をしている。

音楽の形式——観賞を目標にした舞台芸術の抽象舞踊の場合参考を求めるならば音楽の形式以外に何もものないのである。その形式は、一部、二部、三部、複合三部、変奏曲、ロンド形式、ソナタ形式、カノン形式、フーガ形式である。この形式論に関して種々転用のある事実は舞踊に対する考え方を複雑にするよい例になっている。

表現学習構造の拠り所は創造性理論にある。

創造性についてはさまざまな理論があるが、ヴァーナックは別枠に考えてみたいのである。すなわち「創造過程をどのように分析し段階づけをしてみても、創造の本質に迫るのは困難である」と。1926年Waorlos は準備、

あため、啓示、検証の四段階をたてて解明しようとしている。東京工大の亀山教授はその理論に段階を称える方法とはっていないが、問題にとり組む、情報・資料を収集する、あためる、ひらめき、計画を提示し実施する、創造活動の記録をとり保存をする。他にも直観、想像、思考の筋道や連想の拡大、整理、具体化などをあげている。ギルフォード（1950年）は問題に対する感受性、思考の円滑性、思考の柔軟性、オリジナリティ、再構成する力、推敲する力を挙げている。特に感銘を覚えるのは湯川博士の言葉である。「科学者の根本に溯って人間の創造的な活動を深く考えると、そこには美的直観がはたらいている。そして科学者の創造の必要条件は第一に「執念深さ」であるが、さらに自己のなかに矛盾をもっていること、記憶や、理解力、演繹論理的推理力が科学者の創造性に重要なのである。島大ダンス部がイメージ統一の狙いから、徹夜で無について議論をたたかわすのは「執念深さ」に適合し、連想の拡大は表現学習導入段階の「連想ごっこ」に相当するなどを考え合わせると創造性理論の表現創作学習への移調は、児童生徒の学習反応の定着を誘ったということにもなる。

みのりある表現創作学習を纏める

社団法人日本女子体育連盟は設立20周年にあたり「日本体育連盟20年の歩み」を刊行している。そして戦後竹之下休蔵教授を中心に小集団の創作学習指導の研究成果を発表している。このダンス創作学習の特色は、自己の創造的な活動と同時に、他との理解を深める相互交渉の場をもっているところに特性を認めている。また内容と方法は切り離せないものとする積極的な研究は今後も続けられる方向と、その成果に対する期待は大である。

ダンス創作学習——① 心身のほぐし 2 新しい着眼眼を与える 3 活動のしかた、創作の手順を教える 4 題材選択・内容（表現の中核・全体のはこび）⑤ グループ毎に助言指導（中核・動き・はこび）⑥ グループ毎に助言指導（個人・集団）⑦ 感じのこもった動きの発見 ⑧ 確認（心のイメージ、動きのイメージ）9 技能の固定化 ⑩ 作品補正・完成・発表 ⑪ 鑑賞 ⑫ 学習のまとめ。数字に○の無いのは全体に対する同一の指導である。また ⑤ はグループに対する個別指導である。

「遊嬉」の名称が誕生して既に110年になろうとしている。明治遊戯期と戦後の差異は、どの角度からみても先づ夥い数の音楽、そして服装があげられる、レオタードの着用はダンスへの志向と技術を急速に高めている。

一時期は教室と廊下活用のリズム運動学習法が体育雑誌に掲載された時期もあったが、体育館などの施設・設備の充実は、より一層ダンス学習を容易に楽しい内容に行っている。歴史は百年の経過によって、ひとつの事柄が大きく変容するとも言われているが、遊戯期からみておよそ70年で小集団学習に大転換できたのは、号令や強制によるのではなく自発活動を重んずる指導法がとられるようになったからである。この教授から学習の転換は大体大正10年を前後にひとつの時期と考えられているので、身体に関する科学的法則も余り顧みられることなく、運動技術の習得に重点がおかれるようになり、指導の方法もこれを中心に考えられるようになっていた。この点を指摘したのがS11年の教授要綱である。

明治後期の各種遊戯教授法は西歐的な質・方法のある程度批判しながら、日本独自で進歩的な女子教育を築こうとした姿勢がうかがえるとあってよい。そして昭和20年まで運動技術は基本練習も含めて緩徐な傾斜で向上しているとみることができる。

基本歩法を翻訳した行進運動法の内容は、その後現在にいたるまで各種ステップとなっている（表2）。然し最近ではフォークダンスでも歩法として抜き出して指導することはなく舞踊Ⅰではターンの系統発展の参考にツーステップ・ポルカ・ワルツステップが、二つまたは三つの部分による踊り方紹介になっている。また以前は部活動のレクリエーションとして楽しまれたフォークダンスは、8月24日中四国大学キャンピングセミナーの大集団の友好の場の活用に止まっている。また基本歩法は腕の基本態勢・足の基本態勢・基本練習・基礎リズムと変革しているが、最近ではダンスウォームアップとして種々アイデアが生かされている。① いろいろなリズムや音楽に合わせて速い動きを考えたり、形や方向の変化を考えて曲の終りまで動く。② 体育館の空間を理解するために歩・走・跳・止まるを続けたり、身体の表現性を理解するねらいで、身体で字・絵を書く、三角・四角・丸い積木になるなどのアイデアは、児童・生徒の豊かな表現を導き出している。

「基本の運動」の取り扱い方で指導者達が困惑していた頃「女子体育」に掲載された優れた指導案で、三種の運動要因を与えて小作品を創らせて発表する活動がある。まず友達の名を覚える。① 三人連手でぐりっこ。② その手を低くして手を離さず両足跳・片足跳び ③ 連手を離して表現的なくぐりっこ ④ 三人が一列になり走・歩を8呼ぐらい ⑤ 最後の倒是先頭の真似をする。この連続から連想できる小題を決めて作品にする。特にこの2・3年は題の奇抜さに若い世代のたくま

しいアイデアに感じ入っています。そして彼等は、明治遊戯期の活人画応用の終止形に興味を示めずよき理解者でもある。

空間形成法について今少し纏めてみる。舞踊は舞台という与えられた空間において演じられる芸術である。だから空間形成のいかんによっては、無限のマイナス空間になることもあればこの逆の場合も成立する。また舞台と観客すなわち観者との間の空間は観空間とよばれ、相互の関連が更に重要になってくる。この正面を設定して作品を創る場合はグループの一人が観空間に立たなければならなくなる。そしてまた新しい角度の小集団指導の内容と方法の確立が急がれ、また観空間としての視点の学習指導も重要になってくる。とに角残念なことには児童期・中学校期の成長発達に應ずる段階的形成法が提示されていないことである。今後はビデオテープの活用によって舞台空間形成法の理解が容易になるのであろうと確信できるのである。

注1. 小学校運動会の起源—朝日新聞研究ノートより
今野 鉄男 (教育制度史)

注2. 松江市立女子高等学校教諭
若月 隆子 (指導)

注3. 島根県立松江北高等学校教諭
本田稜紀恵 (県立出雲商業高校時代の研究授業)
島大教育学部 特体課程三年 寺本ちよみ (写真モデル)
ジャズダンスのイラスト 寺本ちよみ

参考資料その他

- 音楽応用女子体操及遊戯法 高橋忠次郎・依田直伊 共編
新撰遊戯法 日本体育会 編纂
新式女子表情体操 白井規矩郎 著
新式欧米美的遊戯 白井規矩郎 著
行進運動法 ア・ヘルマン原著坪井玄道・
可児 徳 共訳
最新舞踊全集 日本遊戯調査会調査委員編纂
改正体操教授要目解説 田中寛一・寺沢巖男 編輯
舞踊史 小林 信次
舞踊の美学 邦 正美
舞踊美の探求 松本千代栄
創作舞踊の理論と実際 渡辺 江津
ダンス・表現 学習指導全書 松本千代栄 編集者代表
女子体育連盟20年の歩み 日本女子体育連盟
子供のための創造教育 ジェラルディン・B・シックス
岡田 陽 訳
高橋 孝一 訳
Dance Aerobics Maxine J, Polley
舞踊創作法 江口 隆哉
世界大百科辞典 郡司 正勝
〃 町田 嘉章
〃 青木 和夫
〃 原田 敏明
〃 蘆原 英了
 Kult・ザックス 世界舞踊史 小倉重夫 訳

表1

項目	その場の運動要因と各作品の表出要因との比較 (○=表現性の希薄を示す)
まげる	<ul style="list-style-type: none"> 槍を肩に担う 片腕上挙で体は側屈頭を左右に動揺する。(荒城の月)
のばす	<ul style="list-style-type: none"> 槍を中央に斜に伸展する。 体を上に引き伸ばす(ファウスト)
丸める	<ul style="list-style-type: none"> 観者に対して跪く 上体を前屈して両手を組んで、弛緩して下に垂れる。(雪)
そらす	<ul style="list-style-type: none"> 槍を頭上に高く交叉してアーチを作る 胸を張って上を見あげ両手を側方より頭上に丸くあげつつ左足後に又右足を後に引く。(ファウスト)
振動	<ul style="list-style-type: none"> 右足を突出し槍を跪生の頭上に高く戦闘の状態に保つ一槍の軌跡 開脚して上体の側振運動(ぶらんこ)
震動	○ <ul style="list-style-type: none"> 両手側挙軽く振りつつ2回膝を屈す(蝶々)
平均	<ul style="list-style-type: none"> 双手腕骨、両膝を屈して踏上し両足を1尺2寸程に離隔す(衡秤運動=Balans Motins) 右足を滑足で大きく出しそのままの姿勢でホップする。(ファウスト)
おろす	<ul style="list-style-type: none"> 掲げた槍を左手に保つ 左手を静かに側方におろす(荒城の月)
開く	<ul style="list-style-type: none"> 槍を左肩に沿って側方に斜に開く 物を開く形(朧月夜)
閉じる	<ul style="list-style-type: none"> 各生槍を左手にして胸を覆ふ 開脚よりジャンプして両足を揃える(リチカ)
捻転	<ul style="list-style-type: none"> 上体を全く右側に回して行ふ 体左方に捻転し左後方に注目する(荒城の月)
押す	<ul style="list-style-type: none"> 槍を防護の姿勢に保つ 三番生はぶらんこを前に押す(ぶらんこ)
ずらす	
打つ	<ul style="list-style-type: none"> 右足を突出する カットの入ったバスクステップを円週に沿って4回行なう(幼き頃の思い出)
突く	○ <ul style="list-style-type: none"> 槍先を合して下端を床に休める ジャンプして膝を深く屈し両手を体前交叉し開脚して踵で強く立つ(カマリンスカイヤ)
組む	<ul style="list-style-type: none"> 槍と櫛を身体に密接して胸部に横たふ 各々両手を組みめて肘をあげる(氷すべり)
ける	<ul style="list-style-type: none"> 左足前面突出す 左足を斜外方にキックすると同時に左手の掌を上に向けて左斜下に伸ばす(カマリンスカイヤ)
踏む	<ul style="list-style-type: none"> 四歩足踏す 土を踏む動作をする(ヴァンヤード)
静止	<ul style="list-style-type: none"> そのまま8呼吸を保つ 足趾を上に向けて休止する(仲よし)
座る	<ul style="list-style-type: none"> 観者に対して跪く 膝座して両手にて花の形を作る(蝶々)
膝立	<ul style="list-style-type: none"> 右膝後方歩して屈す 徐々に膝座しつつ(朧月夜)
しゃがむ	<ul style="list-style-type: none"> 膝座してできるだけ小さくなる(かげぼうし)
伏せる	○ <ul style="list-style-type: none"> 掌を上に向けて両手を揃え両方に開いて下に伏せる(ヴァンヤード)
立つ	<ul style="list-style-type: none"> 正しく右生の後方に立つ 前方のぶらんこの前に立つ(ぶらんこ)
爪先立	○ <ul style="list-style-type: none"> 右足前面突出(左足は自然に爪先立になる) 左足を引き寄せて踵をあげ体を上に引き伸ばす(ファウスト)
波動	○ <ul style="list-style-type: none"> 櫛で胸を覆い槍を執り、頭上に掲ぐ(腕のながれる軌跡) 連手を柔らかに動揺しバランスステップを三回回復する(海)
倒	○ <ul style="list-style-type: none"> 跪座し槍を中央に向け斜に保つ 左足を大きく引きて体重をかけ体を後方に倒す(朧月夜)
浮く	○ <ul style="list-style-type: none"> 槍先を一点に合する如くに交叉しそのまま3回旋回する 連手を徐々に上にあげつつ左足より3歩進み最後に右足を後にあげて胸を張る(インザウエイヴス)
沈む	○ <ul style="list-style-type: none"> 半円をつくり4歩足踏して前列は跪き8呼吸はそのまま 右足を踏み切るとび込み膝を屈して体を前に屈げる(インザウエイヴス)

28の項目=身体を表現媒体となるように改変するねらいがもてる基礎的身体運動用語
 上段=明治遊戯期「第一あまぞん」
 下段=教授要目期の作品より

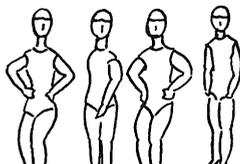
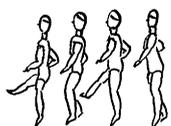
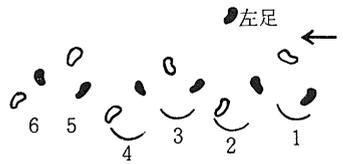
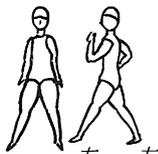
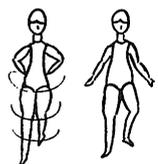
表 2

名称	100年間にみる基本歩法の名称と概数
遊戯期	踵の上下運動, 拍子三踏の歩法, 膝屈伸, 下跳躍・上跳躍, 踏歩, 跳歩, 鶴鳥歩, 後置歩, 交換歩, 揺籃歩, 水雞跳歩, 蘇格蘭跳歩, 水雞歩, 重復蘇格蘭跳歩, ガロップ, 脆座, 臂の動揺, 二重拍子, 階段歩, 振脚跳歩, 後置歩, 摺足, 歩行回転, 交叉回転, 周行, 舞踊連結
教授要目期	バスクステップ, スキップ, スタンプ, ランニングステップ, ウォーキングステップ, ツーステップ, ポルカステップ, スライドステップ, ワルツステップ, マズルカステップ, ホッピングステップ, スキッピングステップ, グランドチェーン, バランスステップ, ツーステップの回転, フォアエンドバック, スケーティングステップ, シャティッシュステップ, フォローステップ, ヒールエンドトウポルカステップ, 三拍子のバランスステップ, レドアポルカステップ, ギャロッピングステップ, キック, ホッピングステップの回転, スケーティングステップの回転, ミニユエットステップ, 側方バランスステップ, ブレークステップ, 三連歩ホッピングステップ, ワルツラン, ワルツターン, レディースチェーン, リープターン,
traditional dance steps	running-step, walking-step, follow-step, skip, two-step, polka-step, heel and toe polka-step, balancce-step, breking-step, walz-step, three-stepschottische-step, elbow-turn, pivot-turn, leap, leap-turn, tap point, walk, slide, run, turn, jump, hop. non-locomotor or axial movement, = swing, twist, balace, kick stamp, stop, half-toe
Dance Aerobics	エアロビック・ジャンプ, エアロビックタップ, ウインド・シール・ワイパー, ウインドミル, キック・ボール・チェンジ, コーディネーター, ギャロップ, クリス・クロス, グリゾード・ステップ・ポイント, グリゾード・アラベスク, グリゾードアティテュード, グリゾード・クロス・ターン, スージーQ, スリーステップターン, ジャンプツイスト, ジャブ, ストレッチキック, サークルブギ, スクワットエクステンション, ショティツシュブギ, サイドブギ, サンシャインツーステップ, ジャブ&ジョグ, ジョグ, ジョグ&キック, ジャンピングジャック&ランジ, サンシャインサークル, サンシャインジョグ, スキーヤー, ジャンプキック, シャッセ, シュガーフット, ショーティジョージブギムーブ, ジャズツーステップ, ストレートキック, シザーキック, ジャズバラエティ, シュガーフット, ジャズブーム, シャッセ, サイドストラット, ステップクロス, ステップポイント, スローキック, タッチ・クローズ, タッチ, チャールストーンディスコ, チャチャチャチェイス, チャチャクロスオーバー, トライアングルタッチ, タッチステップ, トレイン, タッチステップストンプ, トウ・ライズ, ツーステップキック, ニーフック, ニープーシュ, バスステップ, ハッスル, ブギ, ペンシルバニアハッスル, ハイランド I・II, PEスライド, バックブギ, ポルカ, フォーカウントジャンピングジャック, ヒッチキック, ホリゾントラルブル, グレーブパイン, ハーフプレストストローク, バックキック, ヒールヒット, フラッパータッチ, パドルターンプランス, パンチ, ピボットターン, パドルターナー, ハッスルスクエア, バレエグループパイン, バレエウオーク, ペンジュラムスウイング, ファンキック, バレエスクエア, ホリゾントラルブル, バレエタッチ, ボディベンド, マーチング, ロック, ランジ, レッグスウイング, レインボーターン

表3 ダンス100年にみる各要因の比較

区分 項目	明治後期遊戯時代	昭和初期教授要目期	学習指導要領期	新时期(エアロビクス)
教育の 目 標	習慣から到来する一切の悪弊を矯正し、姿勢を正して天然の美勢に復らしむ。女子体操は須らく楽器を使用して興味を副ふ。	国民的思想を養い、協動運動により協同的精神を養ふ。動作の優美的訓練を行なう。	動きのよこびをみつけダンスのための身体づくりをする。個人と異なるグループ表現の楽しさを感じとらせ計画的に学習活動が進められる。	20分～30分の運動で心臓血管系の効率と持久性を高める。個人の歩行・ジョギング・ランニングのレベルでダンスを楽しむ。
指導形態	生徒を交代に教官の位置に立たしめ、各生の模範とし、教師は側にあって伴奏する。	基本態勢・基本歩法は体育館の活用を考慮する。技能の難易より一題を選択して一斉指導をする。	グループ表現学習は全体的指導とグループ別指導の兼ね合いが学習効果を高める。グループにはそれぞれ異質の問題がありグループ間を駆け回ることになる。	指導者は全員の前に同じ方向を向いて指導を始め、全員の技能が、ほぼ等しくなるまで同一パターンが続けられる。
反復性	演習・段ものの構成が規則正しく、または類似的に反復する。	上肢・下肢の動きが調和的・類似的に反復する移行の反復が特徴で左右側方移動・前進後進の反復が規則的である。	時間性の規則的・不規則な動きの模倣が区別できるように動きの練習をする。観て理解を深めたり感じを強める。要因を理解する学習によって漸進的反復性を理解させる。	4呼・8呼・16呼の短いリズム形は、左右移行、前進後進の同じリズムが規則的に反復される、
音 楽	四呼間の急拍子、行進は進行曲で遊戯は3拍子、マーチまたは四拍子で、和絃で三拍子など。	$\frac{2}{4}$ = 18作品、 $\frac{3}{4}$ = 17作品 $\frac{4}{4}$ = 11作品、 $\frac{6}{8}$ = 7作品 ピアノ、オルガン、レコード	SFの世界、情景音楽、シンセサイザーなど、芸術的創作作品でも曲の選択編集は広範囲に可能である。指導では題に適した数曲が用意される。	Center of my Hert I Remember Yesterday. In the Navy No 1 ストレッチングはスローの曲によって行なう。
運動要因	あげる、おろす、まげる、回す、片立膝、捻る。	ファウストの例—あげる、おろす、波動、伸びる、スライド、回転	線香花火の予想される動き—伸ばす、強く縮める、軽く縮める跳び上がる、止まる、回わる。	ジャンプ、ツイスト、クロスキック、ステップ、タッチスライド
題 材	草木・布・旗など手具活用の美的遊戯、感情表現の題—喜怒哀楽、名士の歌曲など。	唱歌遊戯—動物・乗物 遊び・外国のリズム曲自然現象 行進遊戯—自然現象 歌曲、外国のキャラクターダンスに類する名曲に寄せて。(フォークダンスも含む)	日常生活事象、自然現象、感情創作題。 包括的な題、課題方式、他教科と関連する題など。	「フライト76」の曲が、ルーティンNo. 8のエアロビックフライトになる例もある。ルーティンNo. 2はチョコレート・ハッスル・ライン・ダンスなど。
服 装	東髪に洋服、お披露の和服、脛部を拘束しないように袴を着ける。	襷のあるキューロツスカート を膝の長さにする。長さのさまざまなブルマー。	トレーニングパンツとウエア、 ショートパンツ、レオタード。	テニスシューズ、ショートパンツTシャツの軽装、レオタード。
感情価	直線的な、かたい、機械的な、安定した、おごそかな、重々しい、(第一あまぞんより)	ゆるやかな、上昇的、楽しい、重々しい、軽快なのどかな(ファウストより)	ダイナミックな、歓喜の屈曲的、迫力のある、重々しい、おごそかな、 (島大創作ダンス部作品輪回転生より)	楽しい、軽快な、コミカルな、曲線的、流れるような、のどかな (No. 2の作品より)

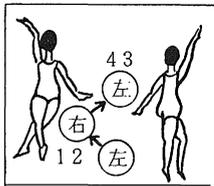
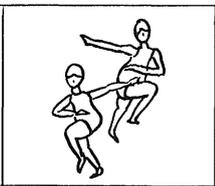
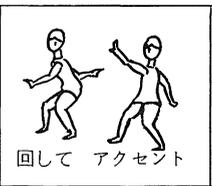
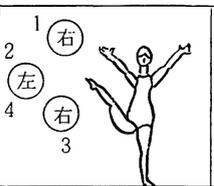
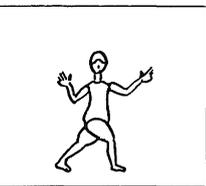
dance with me

					
<p>前奏は、リズムにあわせてかかとの上げ下げ。かかとが上がっている時に脇を広げ、下がっている時に腕でリズムをとるようにして、腕にはずみをつける。次にその場で足ぶみ。リズムカルに体を動かす。</p>		<p>①～④はその場でリズムをとる。 ⑤で前に右足をけり出し、⑥で右・左とふみかえる。⑦⑧もその繰り返しをする。2セットおこなう。</p>		<p>左足から交叉ステップで6拍左に進む。手はリズムカルに、自然に、腰から下をねじる。⑦⑧で足をそろえ、また左足から交叉ステップで6拍右へ進む。</p>	
					
<p>①②で右足のかかとで右斜め前方の床を軽く打つ(2回)</p>	<p>③はその右足で右斜め前方をける。④右足をもどしたと同時に左足を踏み変える。</p>	<p>⑤で右足のかかとで床を打ち、⑥で足の踏み変え、⑦で右足のかかとで床を打ち、⑧で足を踏みかえる。</p>	<p>右足を横に出して左足を交叉する。 (①、②で)</p>	<p>交叉した左足をもとの位置に戻して右足を左足に交叉する。 (③④) ⑤⑥で左足でとびあがり①②の動作をおこなう。</p>	
	 <p style="text-align: center;">右 左</p>	 <p style="text-align: center;">右 左</p>	 <p style="text-align: center;">左 右</p>	 <p style="text-align: center;">左 右</p>	
<p>⑦⑧で手を2度打つ</p>	<p>①で右足を身体ごと右方向に小さく1歩ふみ出す。この時左足はその場で右方向に90°ターンする。</p>	<p>①のままの状態からすばやく180°ターンをする。つまり左方向に向きを変える(②)</p>	<p>③で右足を1歩前にふみ出し、④で左足を直角の角度で右方向に大きく1歩ふみ出す。</p>	<p>⑤⑥で、右足に重心を移動させてポーズする。この時上体は前かがみで左手を前方なめ下にさし出し、右手は後方うしろにおもいきりひいてのびる。</p>	
	<p style="text-align: center;">☆</p>				
<p>⑦で左足を軸にしてオーバークロスターンをしてポーズ。</p>	<p>図の☆印をおこなう</p>		<p>①②③④はリズムによって足踏みし、⑤は止まって、⑥は1回手を打つ。</p>	<p>⑦⑧で右足を前方斜上にふりあげ左足とふみかえる。</p>	

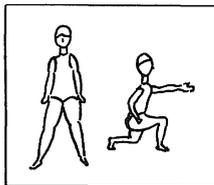
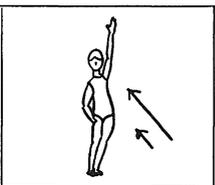
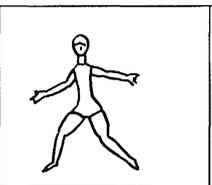
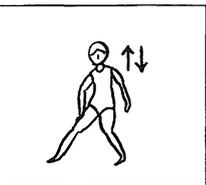
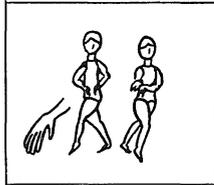
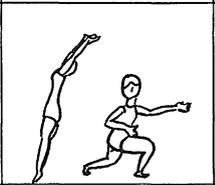
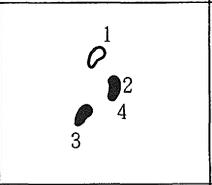
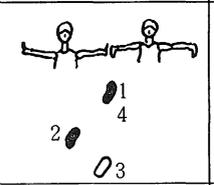
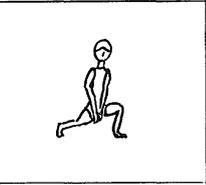
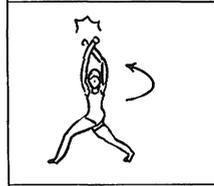
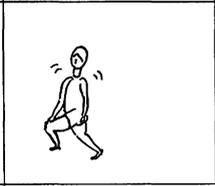
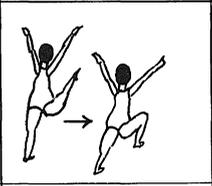
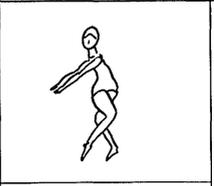
☆				
図の☆印をおこなう。	①で右足を一步踏み出し、右手を腰におく。	②で左足を横に開き、左手を手のひらを上にしてつき上げる。	③④でこの逆をおこなう。	⑤で両手を腹のところへおき、右足を一步後ろにひき、背をまるめ、あごをひく。コントラクションになる。
		☆		
踵をあげて膝を直角にする。	踵をつけて爪先を外方に向ける。	図の☆印をおこなう。		

恋のサバイバル

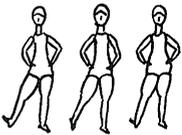
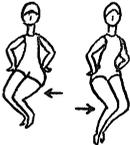
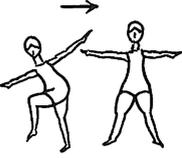
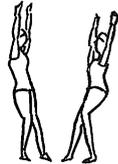
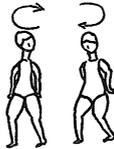
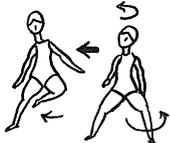
(まず8呼間前奏) 骨盤を上にはきあげるようにして右→左→右→左と体重移動する。手はリズムをとる。4呼間	この動きに図のように手を加える。手は上に伸ばして軽く曲げる。	右後から左前へ①② 左後から右前へ③④ 腰をつき出す。その腰の動きを助けるために足のひねりも加える。	⑤⑥⑦⑧で、軽くはずみながら歩く。手は走る時のように前後にリズムカルに振る。	①で正面を向いて重心をへそにおいて②で右足に体重をおき、左足をまげる。その時腰を右横後にひっぱる感じにする。2回ずつ⑧呼おこなう。
④呼ツーステップをし(手は自由)⑤で手をたたいてそれと同時に右ももを少しひきつける。横に腕をかるく曲げて広げる。	⑥⑦⑧で3回右足で床をけて膝をひきあげる。⑧の時、右足に体重移動し左足を図のようにあげる。	あげた足を右横に持っていく(①②)③で右足を横にもっていく。	④で右足に体重をかけて頭を首からうしろにおとす。(手は直角)⑤で	⑤でステップターンをする。この時、左足に重心を移し一歩少し出す。ターンしたらポーズする。

				
<p>④呼間は白鳥のようにし、小さく図のようにステップする。1と2、3と4のその場の足踏みを爪先でする。</p>	<p>⑤で右足から内側にむけて速テンポで大きく歩く。この時前傾でむねに足をひきあげるようにすよ。腰をツイストし、手は足と反対の手を曲げ同じ手を横にのばす。(4呼間)</p>	<p>8呼間右足を横にもっていきながら腰を半分回しながら(左斜め後ろから回す)手は空気を仰るようにする。回す→アクセント、とする。重心を移し、腰をひねる。</p>	<p>左の同作を4回くりかえした後斜め右上に全体をむけて図のように歩き⑤で足を前に振りあげ⑥でおろす。</p>	<p>⑦で左足を軸にして片足で回り⑧で右足を前に出し手をつけてポーズ以上を又くりかえす。</p>

作品 A

				
<p>はじめは立っていて①②③④呼間目にストンと体を上図のように落とす。右足前、左足は床につけずに膝が直角になるようにする。</p>	<p>⑤⑥⑦⑧で右足をひきつけて右手を上伸ばして全身伸びる。</p>	<p>①②③で右手を少しずつ下げ、④で左足を軸にして半回転ターンをして後ろを見る。上図のようにする。左右の足は一直線上にある。</p>	<p>①呼間で右足を軸に半回転ターンし、(左足のももを少しあげて)両手でももをたたく。②呼間目で左足を少し前に上図のようにする。</p>	<p>③④で後ろから右足を左足にひきつけ、同時に手も勢いよくもってきて、両手で拍手。⑤⑥で肩をup don upし、右横へ、右足、左、右と少し移動</p>
				
<p>すばやく左の方向を向き、左足、右という順に2歩歩く。その時、腰はツイスト反対の手は少し曲げ手のひらを図のようにする(⑦⑧を使って)</p>	<p>①②で半回転して右の方を向いて体をつんのめりそうになるまで伸びる。③④⑤⑥⑦は最初と同じようにストンと落とす。</p>	<p>⑧で右足を前に置、左足から①②③④は図のように歩く。腰はツイスト。</p>	<p>前方にある右足から①②③④図のように歩く。①②は手のひらで外側を押すように③字は手の甲で外側を押すようにする。</p>	<p>⑤⑥⑦⑧で少しずつ手をおろしながら、図のように構える。</p>
				
<p>①②③で右側は向いていた体を左側にむけ、少しずつ手を上げていく。④で手をたたく。</p>	<p>⑤⑥で体をなぞるように手をスーとおろし、⑦⑧で右肩、左右と前後に振る。</p>	<p>左足を軸にし右足を前方に振りあげ(①呼間で)②呼間目に図のように構える。手はハの字にする。</p>	<p>③④で左足を軸に一回転し、⑤で右ひざを内側にひきつけるようにしながら⑥は左足⑦は右⑧は左と歩く。</p>	

作 品 B

				
<p>①②で右足を前に45°くらいに上げ、つま先をたてる。③④でそのつま先をのばす。⑤⑥⑦⑧①②③④までこの動作。</p>	<p>⑤で右足を後にひいて(大きくひき重心を後ろにかける)右足を左足にそろえる(⑥)</p>	<p>⑦⑧でそろえたままひざを右へ左へとつき出す。その時はつま先立ちにする。体が倒れないようにする。</p>	<p>これと同じ動作を左足で16呼吸くりかえす。</p>	<p>膝を①②で右へ③④で左へ⑤⑥右⑦⑧左へとまわす。</p>
				
<p>①②③④でひざを右へまわしながら右足を右横へ、1歩出しし手も横へ広げる。</p>	<p>⑤⑥⑦⑧でその姿勢で膝をまわし左足を左へ1歩出す。その時左手も横に伸ばす。</p>	<p>この時⑧で左に体重をかけ、右足を図のように左足方向へまげる。</p>	<p>①②で右前斜へツーステップして③④で右ももをむねにひきつける。この12呼吸を反対方向でくりかえす。</p>	<p>①②で右手、右足が1直線になるように③④で左側が1直線になるようにアピールして歩く。(8呼吸) ☆A</p>
				
<p>足を横に広げて構えて図のように上から下へ手をおろしていき(4呼吸)次の4呼吸で下の後方から上へ向かって上げてゆく ☆B</p>	<p>☆A ☆Bをもう一度くりかえす。</p>	<p>足を開いて構え、①②で右へ③④で左へというふうに頭で半円を描きながら振る(8呼吸)</p>	<p>①②③④で右へ1回転、⑤⑥⑦⑧で左へ1回転させて頭を回す。</p>	<p>次は①で右へ②で左へと1呼吸ずつ頭を半円に振って(4呼吸)⑤⑥⑦で右方向へ頭を回しながら1回転ターンして⑧で右へ体重をかけ左足を上げる。</p>
				
<p>今度は①で左へ②で右へと頭を振って⑤⑥⑦で左方向へ頭を回して1回転し右足をあげる。</p>	<p>①では後方にある足を②で振りあげ③で後にひく。この時③の中で右足左足右足と足ぶみをし、最後の右足の時は、すばやくうしろをむく。</p>	<p>ターンした時は右の方向へ腰につき出す。重心は右足へ移す。</p>	<p>今度は左足に重心を移し、左方へ腰につき出す。</p>	<p>同様に左足を後へひいて②で足をあげ、足をふみかえてまたターンして前方へ戻る。</p>



女子体操遊戯法より



表情的訓練



独国伯林府ヘルマン出版会社原版行進運動法より



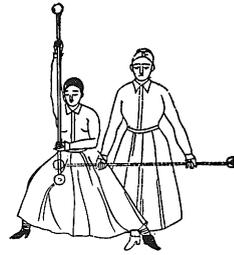
新撰遊戯法より
臂の動揺



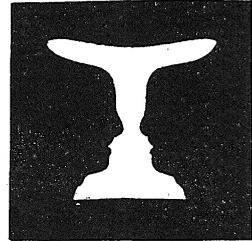
氷すべり



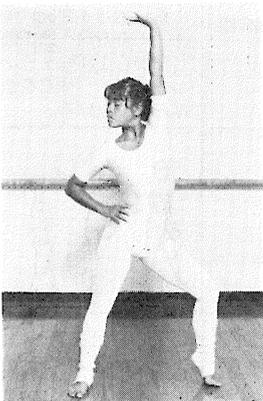
体操教授要目解説書より
ファウスト



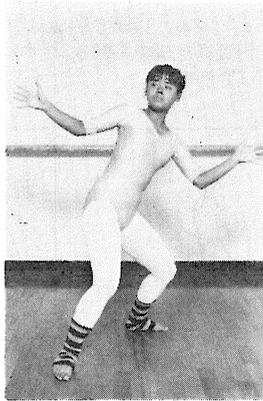
女子体操及遊戯法より
球竿体操



ルビンの盃



ダンス・ウィズ・ミーより



屈曲の多いジャズ



コントラクション